

平成26年度  
教育委員会事務の  
点検・評価報告書  
(平成25年度対象)

平成26年8月

四街道市教育委員会

# 目 次

I	はじめに	1
II	教育委員会の活動状況	1
1	教育委員一覧	1
2	教育委員会会議の開催状況	2
3	教育委員が出席した主な行事及び活動	4
III	平成25年度教育行政方針	5
IV	平成25年度推進事業の点検評価	6
1	基本方針1の点検評価	7
2	基本方針2の点検評価	17
3	基本方針3の点検評価	24
4	基本方針4の点検評価	31
5	基本方針5の点検評価	41
6	基本方針6の点検評価	48
V	学識経験者による意見	55
VI	おわりに	64
資料	四街道教育振興基本計画の基本目標の達成状況	65

## I はじめに

教育行政の組織及び運営の基本を定めた、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」では、教育委員会は、毎年、教育行政事務の管理及び執行に関して自ら点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し議会に提出するとともに公表すること、また点検評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見を活用することが規定されています。

四街道市教育委員会は、平成25年3月に四街道市教育振興基本計画を策定し、計画の基本理念「明日を切り拓く、心豊かでたくましい人づくり」を掲げ教育の振興に取り組んでいます。この計画に基づく「平成25年度教育施策」について点検評価を行いました。

## II 教育委員会の活動状況

教育委員会は、県や市町村に設置される行政委員会のひとつで、合議制の執行機関であり、教育行政の中立性・安定性を確保するため、地方公共団体の長から独立して設置されています。原則5人の委員で構成され、合議により教育行政の基本方針や重要事項などを審議し、決定しています。

### 1 教育委員一覧

職名	氏名	任期	備考
委員長	ハナイ イクヨ 花井 育代	平成24年10月1日から 平成28年9月30日まで 再任平成24年10月1日	委員長任期 平成24年10月1日から 平成25年9月30日まで 平成25年10月1日から 平成26年9月30日まで
委員長 職務代理者	サカモトアキヒコ 坂本 亜輝彦	平成22年10月1日から 平成26年9月30日まで	委員長職務代理者任期 平成25年10月1日から 平成26年9月30日まで
委員	オギツ タダシ 荻津 雅史	平成25年10月1日から 平成29年9月30日まで 再任平成25年10月1日	委員長職務代理者任期 平成24年10月1日から 平成25年9月30日まで
委員	ヒラノヒデノリ 平野 颯範	平成24年10月1日から 平成28年9月30日まで 再任平成24年10月1日	
教育長	タカハシノブヒコ 高橋 信彦	平成25年4月1日から 平成29年3月31日まで	

\*教育委員は、平成14年10月より教育長候補者を除き公募制によって、選任されています。

## 2 教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議は、原則として毎月第4金曜日に「定例会」、必要に応じて「臨時会」を開催しています。また、教育委員会の所管事項について調査研究等を要するものがある場合に、「委員協議会」を開催しています。

- ・教育委員会会議 定例会 12回 臨時会 4回
- ・委員協議会 5回

### (1) 審議の内容

「四街道市教育委員会行政組織規則」第8条に基づき、次のとおり審議を行いました。また、定例会において委員報告や各所管課等の行事報告を行いました。

#### (審議内容一覧)

内 容	件数
教育行政の運営に関する基本方針（学校教育、社会教育の基本的指導計画を含む。）を定めること	1
教育委員会の規則及び訓令を制定し、又は改廃すること	9
予算その他の議決を要する議案について市長に意見を申し出ること	14
教職員のうち、校長及び教頭の任免その他進退に関する内申に関すること	2
教育長、部長、次長、参事、課長及び教育機関（学校を除く。）の長を任免すること	3
附属機関の委員を任命し、又は委嘱すること	8
教育功労者を表彰すること	1
教科書、その他の教材の取扱いの方針を定めること	1
上記以外に掲げるもののほか、重要又は異例に属すること	1
計	40

(2) 議案等一覧

月	件 名
4 臨	・教育長の任命について
4	・附属機関委員の委嘱について2件 ・委員報告及び各所管報告
5	・四街道市立公民館条例の一部を改正する条例の制定について ・四街道市立公民館条例施行規則の一部を改正する規則の制定について ・四街道市立学校給食共同調理場条例の一部を改正する条例の制定について ・附属機関の委員の委嘱について4件 ・委員報告及び各所管報告
6	・委員報告及び各所管報告
7	・平成26年度使用教科用図書の採択について ・委員報告及び各所管報告
8	・四街道市立小中学校学区審議会設置条例の一部を改正する条例の制定について ・工事請負契約の変更契約の締結について ・附属機関委員の委嘱について1件 ・平成25年度教育委員会事務の点検・評価報告書（平成24年度対象）について ・委員報告及び各所管報告
9	・委員報告及び各所管報告
10 臨	・委員長選挙について ・校長、副校長、教頭の任免に関する内申について ・部長、次長、参事、課長及び教育機関（学校を除く。）の長の任免について
10	・四街道市立公民館の指定管理者の指定について ・四街道市温水プールの指定管理者の指定について ・四街道市都市公園（教育委員会所管分）の指定管理者の指定について ・委員報告及び各所管報告
11	・四街道市立図書館資料複製物の提供に関する要綱の一部を改正する告示の制定について ・四街道市青少年問題協議会条例の一部を改正する条例について ・委員報告及び各所管報告
12	・課長及び教育機関（学校を除く。）の長の任免について ・附属機関委員の委嘱について1件 ・委員報告及び各所管報告
1	・平成25年度四街道市教育委員会表彰者等の決定について ・委員報告及び各所管報告
2	・四街道市社会教育委員設置条例の一部を改正する条例について ・平成26年度四街道市一般会計予算（教育委員会所管分）について ・平成25年度四街道市一般会計補正予算（第4号）（教育委員会所管分）について ・委員報告及び各所管報告
3 臨	・損害賠償の額を定め和解することについて ・平成25年度四街道市一般会計補正予算（第5号）について
3 臨	・校長、副校長、教頭の任免に関する内申について ・部長、次長、参事、課長及び教育機関（学校を除く。）の長の任免について

月	件 名
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年度教育施策について</li> <li>・四街道市教育委員会行政組織規則の一部を改正する規則の制定について</li> <li>・四街道市教育委員会公印規則の一部を改正する規則の制定について</li> <li>・四街道市教育委員会表彰規程の一部を改正する訓令の制定について</li> <li>・四街道市教育委員会事務決裁規程の一部を改正する訓令の制定について</li> <li>・四街道市教育委員会行政文書管理規程の一部を改正する訓令の制定について</li> <li>・四街道市少人数学級推進教員設置規程の一部を改正する訓令の制定について</li> <li>・四街道市外国語指導助手設置規程の一部を改正する訓令の制定について</li> <li>・委員報告及び各所管報告</li> </ul>

### 3 教育委員が出席した主な行事及び活動

教育委員会会議のほかに、学校行事に出席し、児童生徒・保護者・教職員などと意見交換を行うとともに、研修会・会議等に出席しました。

月	行 事 等 の 名 称
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校入学式</li> <li>・印旛郡市地方教育委員会連絡協議会定期総会</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書採択協議会</li> <li>・第1回地域コーディネーター会議</li> <li>・千葉県市町村教育委員会連絡協議会定期総会</li> <li>・関東甲信越静岡市町村教育委員会連合会総会及び研修会</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校運動会</li> <li>・ガス灯ロードレース大会第1回実行委員会</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会、校長会合同視察研修</li> <li>・郡市民体育大会総合開会式</li> <li>・教科書採択協議会</li> <li>・青少年健全育成推進大会</li> <li>・郡市民体育大会選手激励</li> </ul>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユネスコ夏のキャンペーン</li> </ul>
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校体育祭</li> <li>・小学校運動会</li> <li>・第1回千葉県市町村教育委員会連絡協議会教育委員研修会</li> </ul>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・印教連教育委員長会議</li> <li>・スポーツ de 健康大作戦</li> <li>・旭小学校創立140周年式典</li> <li>・市町村教育委員会研究協議会</li> </ul>

月	行事等の名称
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民文化祭</li> <li>・印教連研修視察</li> <li>・児童生徒作品展表彰式</li> <li>・ガス灯ロードレース大会</li> <li>・わくわくコンサート</li> <li>・南小学校創立 140 周年記念式典</li> </ul>
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・印旛郡市駅伝競走大会</li> </ul>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四街道市消防出初式</li> <li>・新成人のつどい</li> <li>・第 2 回千葉県市町村教育委員会連絡協議会教育委員研修会</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第 2 回地域コーディネーター会議</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会表彰式</li> <li>・小中学校卒業式</li> <li>・辞令交付式</li> </ul>
月	行事等の名称
随時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校訪問（授業参観、学校行事）</li> <li>・教育委員会 HP「夢みつけ隊、いいところみつけ隊」に投稿</li> </ul>

### Ⅲ 平成 25 年度教育行政方針

世界は、グローバル化や情報通信技術の進展に伴い、人・モノ・金や様々な情報・文化・価値観が国境を越えて流動化し、変化が激しい社会に移行しております。

我が国においては、経済成長が停滞し、低迷を続けている中で、他国に例を見ない急激な少子高齢化という難しい問題に直面しております。

また、一昨年の東日本大震災は、地震、津波だけでなく、原子力発電所の事故も伴い、その影響は広範囲かつ甚大であり、多くの解決すべき問題を抱えております。

このような社会の急激な変化は、社会生活に様々な影響を及ぼしており、各分野での早急な対応が迫られております。

教育分野では、平成 18 年に教育基本法が改正されましたが、これまでの教育基本法に掲げられてきた「人格の完成」や「個人の尊厳」などの普遍的な理念を大切にしつつ、新しい時代の教育の基本理念として、「知・徳・体の調和がとれ、生涯にわたって自己実現を目指す自立した人間」、「公共の精神を尊び、国家・社会の形成に主体的に参画する国民」、「我が国の伝統と文化を基盤として国際社会を生きる日本人」の育成を目指すことを明確にしております。

教育委員会では、24 年度に策定した「教育振興基本計画」で、「明日を切り拓く、心豊かでたくましい人づくり」を基本理念として、今後 5 年間に取り組む 6 つの方針を定めました。

この計画の初年度となる25年度は、この6つの基本方針が各学校をはじめとして、家庭・地域、そして市民に定着し、これからの5年間の初年度にふさわしい取組となるよう、全力を傾注してまいります。

特に、子どもたちにどんな窮地をも切り抜けられる体力と精神を培うこと、そして確かな学力を定着させることなど、学校教育の充実に努めます。

また、市民の学習・スポーツ活動を充実させるため、生涯学習環境の整備や高等教育機関と連携した地域人材の育成・活用など、生涯学習の推進に努めます。

体育、スポーツについては、24年度に策定した「スポーツ推進計画」に基づき、各種施策の推進に努めます。

以上、本年度の教育行政方針とし、「子育て日本一のまち」を目指して、次に主な推進施策と事業を定めることとします。

#### IV 平成25年度推進事業の点検評価

平成25年度に実施した推進事業の点検評価は、平成25年度教育施策に掲げた、事務事業ごとに行いました。

P D C Aサイクルの概念でいえば、施策の主題・事業計画等がP（計画）、主な事務事業の実績がD（実行）、評価と課題がC（チェック）となり、A（改善）を要する事務事業については、速やかに対応し、今後の教育施策作成において生かしていきます。

※表中の評価ランク

- ・◎十分満足できる結果であった
- ・○満足できる結果であった
- ・△やや不満足な結果であった
- ・×不十分な結果であった



## 基本方針1の点検評価

### 【基本方針1】

豊かな感性を育み、強い心で正義を尊ぶ、たくましい子どもを育てます

### ☆平成25年度教育施策に掲げた主な施策と事業

#### 1 豊かな感性を育む教育の推進

- ① 心がわくわくする体験的な学習の充実
- ② 豊かな心を育む読書活動の推進

事務事業名 ※1	事業内容 ※2	備考
教職員研修事業  (指導課)	指導主事や市内教科協力員を学校の要請に基づき派遣し、体験的な学習を取り入れた学習指導計画立案や授業研究会での助言により授業改善を進めていきます。 また、学校が行う様々な体験活動を支援します。  [5, 266千円]	
読書活動活性化支援事業  (指導課)	「四街道市子ども読書活動推進計画(第二次)」に基づき、読書活動の充実を図ります。 ・学校図書館を活用した授業の展開 ・読書タイムや読書に関する行事の実施 学校図書館指導員を全小中学校に配置するとともに、ボランティアも活用しながら、学校図書館の環境整備と読書活動への支援を行います。 学校図書館図書標準の達成に努めるとともに、バーコード化を推進し、図書管理システムによる蔵書の管理と図書購入システムの有効な活用を図ります。  [24, 299千円]	

※1 事務事業名は、予算書等に位置付けされている名称を記載しています。

※2 事業内容欄に記載されている金額は、当該事務事業の全体予算額です。

## 1 事務事業の実績と達成度

事務事業名	実績	達成度
教職員研修事業  (指導課)	<p>学校からの依頼により、指導主事や市内教科協力員が講師として校内授業研究会に出向き、授業についての指導助言を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導主事が講師として指導した回数 94回（小学校67回、中学校27回）</li> </ul> <p>学校が行う体験活動の支援を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校3，4年生、校外学習用のバスの借り上げとコースの調整</li> <li>・キャリア教育受入れの調整</li> <li>・中学校の合唱コンクール及びわくわくコンサートの施設、利用機材の連絡調整</li> </ul>	○
読書活動活性化支援事業  (指導課)	<p>「四街道市子ども読書活動推進計画（第二次）」に基づき事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館指導員を全小中学校に配置</li> <li>・読書推進連絡会議及び推進会議の実施</li> <li>・担当教員及び学校図書館指導員の連携調整及び資質向上</li> <li>・学校図書館の蔵書整備</li> </ul> <p>平成25年度末学校図書館標準冊数率*100%達成校</p> <p>小学校 12校中9校（前年度 8校） 中学校 5校中2校（前年度 2校）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校のバーコード化の完了</li> <li>・学校図書館指導員による授業への参画</li> <li>・全小中学校での読書タイムの実施</li> </ul> <p>※学校図書館図書標準冊数率 学級数によって、蔵書冊数が算出され、算出された冊数を100%としたときの実際の蔵書冊数の割合を示したもの</p>	○

## 2 評価と課題

教職員研修事業については、指導主事等が、児童生徒が主体的に活動（学習）する視点からも、指導助言を重ねた。各小中学校においても、児童生徒が主体的に学ぶ授業展開に努める姿が見られるようになり、問題解決的、体験的な授業展開が増えてきている。

しかし、まだ講義形式の授業展開もみられ、公開研究会の情報や授業力のある教職員の情報を学校に周知し、教職員一人一人が他校参観等をとおして授業観を広げるなどの授業改善が必要である。

読書活動活性化支援事業については、学校図書館指導員による読書環境の整備や読み聞かせ等での授業参画など学校図書館を中核とした読書活動の充実が図れている。また、学校図書館での蔵書整備も進んでおり、読書環境も整ってきている。

今後は、学校図書館指導員の勤務日数の拡大や蔵書整備を図りながら全小中学校での学校図書標準冊数率100%の達成を図る必要がある。また、バーコード化が完了したので、図書管理システムによる蔵書の管理と図書購入システムの有効活用を図ることも課題である。

☆平成25年度教育施策に掲げた主な施策と事業

2 強い心と正義感の育成

- ① 自尊感情の育成
- ② 正義感・規範意識の育成

事務事業名	事業内容	備考
<p>教職員研修事業</p> <p>(指導課)</p>	<p>「命の教育」を推進し、指導主事の計画的訪問・指導により道徳教育の一層の充実を図っていきます。</p> <p>また、各学校の実態に即した「命の教育全体計画」を作成し、学校教育活動全体を通して児童生徒の「思いやる心 強い心 自尊感情」の育成といじめを許さない学校づくりを図っていきます。</p> <p>自尊感情の育成や正義感・規範意識の育成等に関して、道徳教育や人権教育についての研修会を実施します。</p> <p>[5, 266千円]</p>	<p>再掲</p> <p>1-1</p>
<p>教育相談体制支援事業</p> <p>(指導課)</p>	<p>スクールカウンセラーを活用し、児童生徒、保護者、教職員を対象に相談活動が円滑に行えるよう、助言と環境整備を行います。</p> <p>長期欠席児童生徒の学校復帰や社会的自立に向けて、学校教育相談室「ルームよつば」を運営し、電話・来室による相談活動、児童生徒の適応指導、他機関との連携等を行います。</p> <p>[5, 794千円]</p>	
<p>青少年育成支援事業</p> <p>(青少年育成センター)</p>	<p>いじめ、不登校、児童虐待等については、原因や背景が複雑で多様化しています。そこで、主に福祉面での専門的な視点で問題の解決に携われるスクールソーシャルワーカーの配置に向けた整備を図ります。</p> <p>[9, 656千円]</p>	

1 事務事業の実績と達成度

事務事業名	実績	達成度
<p>教職員研修事業</p> <p>(指導課)</p>	<p>「命の教育」を推進する事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8つの方策を提示、及び実践</li> <li>・ 各校での全体計画の立案と実践、講演会への支援</li> <li>・ 道徳の時間（テーマ「いのちのつながりと輝き」）の授業実践及び指導主事による指導助言。（全小中学校年間2回実施）</li> </ul> <p>いじめ撲滅キャンペーンを実施（11月～12月）した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各学校をはじめ、HP、懸垂幕等で広く市民へ周知</li> <li>・ 各学校の取り組み状況の把握及び集約</li> </ul> <p>いじめの発生件数（平成25年度末調査より）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校 25件 うち解消した件数 23件 （前年 30件 うち解消した件数28件）</li> <li>・ 中学校 16件 うち解消した件数 13件 （前年 20件 うち解消した件数19件）</li> </ul> <p>教職員対象に各種研修会を実施し、児童生徒の自尊感情の醸成や正義感・規範意識の育成等のための指導力向上を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実施研修会（道徳研修会、人権研修会、特別支援教育研修会、情報モラル教育研修会）</li> </ul>	<p>○</p>
<p>教育相談体制支援事業</p> <p>(指導課)</p>	<p>学校への助言と相談活動環境の整備を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ スクールカウンセラーへの相談件数 1,571件</li> </ul> <p>学校教育相談室「ルームよつば」を運営し、電話・来室による相談活動、児童生徒の適応指導、他機関との連携を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不登校児童生徒数（平成25年度末調査より） 不登校児童数 10人（前年度 12人） 不登校生徒数 71人（前年度 52人）</li> <li>・ 学校教育相談室での状況 通室児童数 2人（前年度 2人） 学校復帰児童数 1人（前年度 1人） 通室生徒数 22人（前年度 10人） 学校復帰生徒数 7人（前年度 1人） 保護者や教職員との面接相談 156件（前年度 89件） 保護者や教職員との電話相談 660件（前年度 246件）</li> </ul>	<p>○</p>
<p>青少年育成支援事業</p> <p>(青少年育成センター)</p>	<p>スクールソーシャルワーカーを青少年育成センターに配置した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年間 46日</li> </ul> <p>スクールソーシャルワーカーを学校や家庭に派遣し、多様化、複雑化する相談に対応した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相談受理件数：延 30件 （小学生 11人、中学生 5人）</li> </ul>	<p>○</p>

## 2 評価と課題

教職員研修事業については、「命の教育」では、各学校の実態に応じて、1年目の反省を生かした計画・実践ができた。特に道徳の時間については、全小中学校で「いのちのつながりと輝き」を意識した授業展開がなされ、児童生徒への「思いやる心」「強い心」の育成、自尊感情の醸成、そして、正義感・規範意識の高揚につながった。

また、いじめ撲滅キャンペーンについては、各小中学校において、学級活動や集会活動での工夫した取組等により、いじめをなくそうという意識の高揚が図れた。本キャンペーンを継続させていくために、今後もより実態に即した計画と、より一層内容の充実を図る必要がある。

教育相談体制支援事業については、スクールカウンセラーの相談活動が円滑に行えるよう支援することができたが、年々増加している相談件数に対して、相談体制の強化が課題となる。

学校教育相談室「ルームよつば」では、電話・来室による相談を行い、長期欠席児童生徒の学校復帰や社会的自立を促すことができた。通室児童生徒にとっては、小集団の中ではあるが、コミュニケーションがとれるようになるだけでなく、生活のリズムを取り戻す一助となった。事後対応だけでなく、長期欠席とならないための未然防止策を進めることが必要である。

青少年育成支援事業については、スクールソーシャルワーカーを配置したことにより、学校や家庭だけでは対応が困難な問題に対して、教職員や家族への支援が図れた。

今後は、増加している相談に対応できるよう、更なる相談体制の充実に努めていきたい。

☆平成25年度教育施策に掲げた主な施策と事業

3. たくましい子どもの育成

- ① 子どもの体力向上の推進
- ② 食育と健康教育の推進

事務事業名	事業内容	備考
学校体育振興事業  (指導課)	「ラジオ体操」や「新体力テスト」の活用を推進し、児童生徒の体力向上策を充実させていきます。 また、体育科授業研修会や市体育研究部と連携した実技研修会を通して、体育科授業の充実を図ります。 小学校に走運動の専門家を派遣し、児童の体力の向上を図ります。 中学校の運動部活動に地域の指導者を派遣し、生徒の競技力と体力の向上を図ります。  [5, 126千円]	
教職員研修事業  (指導課)	「食に関する指導の指針」作成や「弁当の日」を定めるなど、食への興味関心を高めるとともに、正しい知識を培い、体験を通し感謝の気持ちを育てていきます。 栄養士研修会や食育研修会の開催により、教職員の資質向上を図り、児童生徒への食と健康に関する指導の充実に努めます。  [5, 266千円]	再掲 1-1 1-2
学校給食管理運営事業  (指導課)	献立内容の充実を図り、学校給食を通して望ましい食習慣の形成を図ります。 食育の充実のため、学校給食運営委員会を開催します。  [211, 829千円]	
健康診査事業  (学務課)	児童・生徒及び教職員を対象に各種健康診断を行い、健康管理、健康保持の促進に活かします。  [34, 255千円]	
学校保健安全事業  (学務課)	小学校での薬物乱用防止教室、中学校での非行防止教室を開催し、児童生徒の薬物乱用防止に関する指導の充実を図ります。  [21千円]	

## 1 事務事業の実績と達成度

事務事業名	実績	達成度
学校体育振興事業  (指導課)	<p>各学校へラジオ体操の実施を推進した。新体力テストの結果を分析し各学校を指導した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラジオ体操実施校数 13校</li> <li>・運動能力証の交付率 小学校 34% (前年度 32.9%) 中学校 27% (前年度 24.5%)</li> </ul> <p>体育主任研修会や授業研究会に指導主事を派遣し、正課体育の充実について、指導助言を行った。</p> <p>小学校の陸上練習や中学校の部活動において、要請のあった学校に専門性の高い指導者を派遣した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・派遣校数 小学校 7校 中学校 5校</li> <li>・派遣指導者数及び派遣回数 小学校 8名 延 528回 中学校 18名 延 460回</li> <li>・派遣種目 (中学校) 柔道、剣道、陸上、野球、サッカー、バスケットボール、ソフトボール、ソフトテニス</li> </ul>	○
教職員研修事業  (指導課)	<p>「食に関する指導の指針」を作成し、全教職員へ配布した。</p> <p>「弁当の日」についてはモデル校3校（中央小学校、和良比小学校、千代田中学校）で実施した。</p> <p>教職員対象の研修会を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食育研修会の実施 1回</li> <li>・栄養士会での指導助言</li> </ul>	◎
学校給食管理運営事業  (指導課)	<p>望ましい食習慣の形成を図るため、多様な食品の組み合わせや栄養バランスの取れた給食を提供した。</p> <p>学校給食運営委員会を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施回数 2回</li> </ul>	◎
健康診査事業  (学務課)	<p>検査機関や学校保健関係団体の協力を得て、児童生徒の健康診断を実施した。また、継続的な管理ができるよう、学校保健管理ソフトを導入した。</p>	○
学校保健安全事業  (学務課)	<p>関係団体の協力を得て、小中学校で薬物乱用防止教室（中学校では、非行防止の内容を含む）を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施校 小学校 11校 中学校 5校</li> </ul>	○

## 2 評価と課題

学校体育振興事業については、ラジオ体操の推奨に努め、各小中学校では、運動会や体育授業において、13校が実施した。また、新体力テストの分析をし、各学校の課題解決について指導助言ができた。一昨年度の本市の最大の課題であった投力については、各学校の対策により、県平均にかなり近づくことができた。一方で、「握力」等、全学年で県平均を下回る種目の向上が次なる課題である。本市の位置は、全国平均をやや上回るが県平均をやや下回る現状である。

専門性の高い指導者を派遣し、児童生徒の体力および競技力の向上が見られた。また、教員にとっても専門的な指導を学ぶよい機会となった。この指導者派遣については、学校の要請に応じるための指導者が不足しており、人材の確保が課題である。

教職員研修事業については、「食に関する指導の指針」の見直しを行い、教職員の日常的指導に対応した実践的なものができた。「弁当の日」を実施した3校では、保護者、児童生徒、教職員のそれぞれから、肯定的な意見を聞くことができた。今後は、モデル校の実績を周知しながら、平成28年度の全校実施に向けて段階的な啓発、実践を行っていくことが必要であるとする。

学校給食管理運営事業については、栄養のバランスが取れた給食を提供し、児童生徒の心身の健全な発達に寄与した。さらには、学校給食運営委員会での意見を学校給食にも反映させることができた。今後も次代を担う子どもたちが、心身ともに健やかに成長できるよう、安心・安全な給食の提供を継続していく必要がある。

健康診査事業については、健診の実施により、児童生徒の健康の維持増進が図れた。今後も健康維持増進のためのシステムや環境づくりに努める必要がある。

学校保健安全事業については、児童生徒が薬物乱用の怖さを実感し、乱用防止に向けての意識の向上につながった。学校事情により実施できなかった学校に対して、次年度以降も実施できる体制を整えることが課題である。



## ☆平成25年度教育施策に掲げた主な施策と事業

### 4. 教育機関の連携推進

- ① 異校種・教育機関との連携推進
- ② 一人一人が輝く特別支援教育の推進

事務事業名	事業内容	備考
教職員研修事業  (指導課)	<p>児童生徒の発達段階や学習内容の系統性等をふまえた継続的な指導の実施をめざし、小中学校の連携を基盤とした校内研修の推進を図ります。</p> <p>また、幼稚園・保育園(所)、小学校との連携推進に関する研修会を実施します。</p> <p style="text-align: right;">[5, 266千円]</p>	<p>再掲</p> <p>1-1</p> <p>1-2</p> <p>1-3</p>
特別支援教育推進事業  (指導課)	<p>特別に支援を必要とする児童生徒に対し、途切れのない支援を目指し、市内の幼稚園・保育園(所)・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校との連携を推進し、教育活動の充実を図ります。</p> <p>また、保護者と学校が児童生徒一人一人の実態と支援の方法を共通理解し、ニーズに応じた支援が円滑に行えるようにします。</p> <p style="text-align: right;">[32, 066千円]</p>	
就学指導事業  (指導課)	<p>就学指導委員会の開催など、就学前児や児童生徒一人一人のニーズに応じた、適切な就学指導、就学相談を行います。</p> <p style="text-align: right;">[234千円]</p>	

## 1 事務事業の実績と達成度

事務事業名	実績	達成度
教職員研修事業 (指導課)	<p>特別支援教育研修会に通常学級の教員も参加させ、指導力の向上を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通常学級教員参加人数 56人</li> </ul> <p>幼保小連携教育研修会を開催し、発達段階を踏まえた継続的な指導や支援の在り方について研修した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会実施回数1回 参加人数 70人</li> </ul>	◎
特別支援教育推進事業 (指導課)	<p>特別支援連携協議会を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協議会実施回数 2回（7月、2月）</li> </ul> <p>会議、研修を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育連絡会議実施回数 3回（6月、8月、1月）</li> <li>・夏季休業中に、千葉県立千葉豊学校で情報交換や研修を行った。</li> </ul>	◎
就学指導事業 (指導課)	<p>就学指導委員会を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施回数 3回</li> <li>・審議件数 68件</li> </ul>	○

## 2 評価と課題

教職員研修事業については、夏季休業中に開催した特別支援教育研修会において、特に通常学級担任の発達障害児童生徒に対する理解を深めることができた。今後も会議を毎年開催し、引き続き通常学級の教職員に対する理解啓発を行っていく必要がある。

幼保小の連携についても、研修会をきっかけに、管理職及び教員間の情報交換等が円滑に進んでいるため、今後も継続していく必要がある。

特別支援教育推進事業については、連携協議会等の開催によって、幼稚園、保育園（所）、小学校、中学校、特別支援学校と連携し、適切な就学や教育環境を整えることができた。課題としては、個別の教育支援計画の推進が挙げられる。

就学指導事業については、就学指導委員会において、一人一人について保護者及び本人に寄り添った慎重かつ熱心な審議が行われ、適正な就学指導が行われた。今後は、ケースの多様化及び審議件数の増加に伴い、会議の日程、進行方法を検討する必要がある。

## 基本方針 2 の点検評価

### 【基本方針 2】

確かな学力を身につけた子どもを育てます

### ☆平成 25 年度教育施策に掲げた主な施策と事業

#### 1. 魅力ある授業の推進

- ① 学び合う授業の創造
- ② 教職員の授業力の向上
- ③ 問題解決的な学習及び体験的な学習の充実

事務事業名	事業内容	備考
少人数学級推進事業 (学務課)	モデル校での試行実施の成果を踏まえ、市内の小学校 1, 2 年生の全ての対象学年で少人数学級、少人数指導、ティームティーチングを実施します。 [22, 244 千円]	
教職員研修事業 (指導課)	市内全ての小中学校を「授業力向上研究校」に指定し、公開授業の実施や他校参観を通して、全ての教職員の授業力の向上を図ります。 授業の工夫改善にあたっては、児童生徒同士が学び合う授業、問題解決的な学習の実施、体験的な学習の充実を図ります。 また、市教委主催研修会や各種機関・団体主催研修会への参加促進などによって教職員の資質向上を図ります。 [5, 266 千円]	再掲 1-1 1-2 1-3 1-4

## 1 事務事業の実績と達成度

事務事業名	実績	達成度
少人数学級推進事業 (学務課)	<p>小学校低学年を対象に各学校の実情に応じて5校6つの学年で実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数学級 2つの学年</li> <li>・少人数指導とチームティーチング 2つの学年</li> <li>・チームティーチング 2つの学年</li> </ul>	◎
教職員研修事業 (指導課)	<p>市内全小中学校を「授業力向上研究校」に指定した。指導主事が全小中学校に講師として出向き、児童生徒が主体的に学ぶ授業を視点到指導助言を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全教員による指導案の作成、及び公開授業の実施</li> <li>・他校参観の実施率 約60%</li> <li>・指導主事が、講師として指導した回数 94回 (小学校67回、中学校27回)</li> </ul> <p>市教育委員会主催の研修会を12講座17回実施した。各研修会終了後にアンケート等を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市教育委員会主催各種研修会参加人数 延416人</li> </ul>	◎

## 2 評価と課題

少人数学級推進事業については、教師が一人一人の児童に対して、丁寧にかかわることが可能となり、学習面・生活面の双方においてきめ細かな支援を行うことができた。

教職員研修事業については、全教員が実践する公開授業をとおして児童生徒が主体的に学びあう授業展開もみられるようになってきた。他校参観については、日程が合わずに参観したい授業が参観できない状況もあることから、市内だけでなく、市外の公開研究会などへの参観も奨励し、市内教員の授業力を向上させる必要がある。

市教育委員会主催研修会は好評であった。研修会終了後に行ったアンケート等は、次年度の研修をより充実させることができるため重要である。いじめ防止対策推進法の施行に伴い、いじめ防止等に関する研修会を加える必要がある。

## ☆平成25年度教育施策に掲げた主な施策と事業

### 2. 多様な学びの推進

- ① 小中一貫教育の推進
- ② 夢を育む教育の推進
- ③ 外国語教育の推進
- ④ 情報教育の推進

事務事業名	事業内容	備考
小中一貫教育推進事業 (学務課)	小中一貫教育（連携型）※3モデル校（1中学校区）を選定し、効果的な連携の在り方を検討します。 [ 一 千円]	
小学校（中学校）キャリア教育推進事業 (指導課)	児童生徒が、将来の夢と希望を抱き、自分らしい生き方を見出し、社会の中で自立的に生きぬく力を身につけられるよう、様々な教育活動の機会をとらえてキャリア教育を促進します。 また、小学校での職場見学や中学校での職場体験等の体験活動を充実させ、自己実現ができるように支援します。 [271千円]	
外国語指導助手派遣事業 (指導課)	小学校では、体験的な学習活動等を通して外国語に慣れ親しみ、中学校では「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの技能を高め実践的な英語力の育成を図ります。 外国語指導助手（ALT）の有効活用等について指導助言し、授業改善を図ります。 ・外国語教育コーディネーターの派遣 [22,588千円]	
小学校（中学校）コンピュータ機器管理整備事業 (指導課)	児童生徒の情報活用能力の育成を目的として、ICT機器を活用し、わかりやすく深まりのある授業、学習意欲や知的好奇心を高める授業づくりを支援します。 また、情報社会についての正しい知識のもと、適切な情報との関わり方を学ぶ情報モラル教育を推進します。 [19,913千円]	
教育ネットワーク基盤整備事業 (指導課)	ICT機器を活用した授業の推進、教職員の校務の効率化等を目的に、機器の整備や維持、適切な運用管理を推進します。 [12,864千円]	

※3 小中一貫教育には、一体型、併設型、連携型があります。本市では、地域の結びつきが強い小学校と中学校が連携して取り組む小中一貫教育を目指します。

## 1 事務事業の実績と達成度

事務事業名	実績	達成度
小中一貫教育の 推進事業  (学務課)	<p>モデル校職員による研究推進委員会を組織して年間3回の会議を開催し、3分野の視点から研究を進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科指導連携部会（学力向上）</li> <li>・領域連携部会（豊かな心の育成）</li> <li>・生徒指導連携部会（基本的生活習慣の向上）</li> </ul>	○
小学校（中学校） キャリア教育推 進事業  (指導課)	<p>小学校での職場見学や中学校での職場体験等を支援した</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育推進会議 2回（6月、1月）</li> <li>・キャリア教育受入の調整</li> </ul>	○
外国語指導助手 派遣事業  (指導課)	<p>小学校では外国語に慣れ親しみ、中学校では4つの技能（聞く、話す、読む、書く）を高め、実践的な英語力の育成を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語指導助手（ALT）の直接雇用 5人</li> <li>・指導主事によるALTの授業参観とALTへの指導助言（全小中学校にて）</li> <li>・英語、外国語活動研修会の実施回数 2回（6月、7月）</li> <li>・外国語教育コーディネーターの派遣（72回）</li> </ul>	◎
小学校（中学校） コンピュータ機 器管理整備事業  (指導課)	<p>ICT機器を活用し、授業づくりを支援した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当指導主事による、要請のある学校に出向いての機器の調整、及び使用方法の指導助言</li> <li>・全小中学校のパソコン室の整備</li> <li>・プリンタトナーカートリッジの購入、配布等</li> </ul> <p>インターネットを利用することで起こるリスクや、タブレット端末を利用して、フィルタリングをかけることを研修した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報モラル研修会の実施 1回</li> </ul>	○
教育ネットワー ク基盤整備事業  (指導課)	<p>機器の整備や維持、適切な運用管理を推進した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコン実技研修会の実施 1回</li> </ul>	○

## 2 評価と課題

小中一貫教育の推進事業については、モデル校三校における合同会議を開催することにより、教員相互の意識の共有化が図れた。

今後は学校・地域・行政の連携を含めた研究推進の組織体制の整備と目指す姿の明確化、長期・短期における推進計画の策定が必要である。

小学校（中学校）キャリア教育推進事業については、児童生徒が、将来の夢と希望を抱き、自分らしい生き方を見出し、社会の中で自立的に生き抜く力を身につけることをねらいとした教育の支援を行うことができた。推進会議は、キャリア教育を担当する職員の、キャリア資質を育むための在り方について考えを持つ機会とすることができた。職場見学や職場体験等の活動について、形骸化しないようにPDCAサイクルにより見直しを行い、改善していくための指導助言を行っていく。

外国語指導助手派遣事業については、コミュニケーション能力の高い外国語指導助手を直接雇用したことにより、学校のニーズに応じた教育が可能になり、授業が一層充実するだけでなく、児童生徒の意欲の高まりが大きな成果でもある。今後は、外国語指導助手の配置期間等について、学校からも要望が上がっており、より効果的な配置を行う必要がある。

小学校（中学校）コンピュータ機器管理整備事業については、ICT機器の活用で、児童生徒の情報活用能力の育成につなげることができた。わかりやすく深まりのある授業により学習意欲や知的好奇心が高めることができた。

配備したコンピュータ機器の保守や消耗品等の準備により、各学校が機器を常時活用することができている。今後、普通教室でのICT機器の活用を検討していく。

また、児童生徒の情報モラル教育を充実させるために、情報モラル研修会を実施し、教職員の情報社会についての最新の知識と、適切な情報との関わり方について理解を深めることができた。

教育ネットワーク基盤整備事業については、研修会の実施と機器の整備や維持、適切な運用管理により、教職員の校務の効率化等を図ることができた。情報伝達技術の進展に伴った機器の見直しと整備を継続的に実施していく。

## ☆平成25年度教育施策に掲げた主な施策と事業

### 3. 学校教育充実の支援

- ① 家庭との連携による学習習慣の形成
- ② 子どもたちの学びを支える支援

事務事業名	事業内容	備考
指導事務事業 (指導課)	学習習慣の形成のため、家庭での学習に関する啓発資料を配付するなど、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得に対する家庭学習の大切さを伝えます。 [772千円]	
特別支援教育推進事業 (指導課)	特別な支援が必要な子どもたちに対し様々な人的支援を行います。 ・特別支援教育支援員の配置 保護者と学校が児童生徒一人一人の実態と支援の方法を共通理解し、ニーズに応じた支援が円滑に行えるよう検査や相談などを行います。 ・巡回相談員の派遣 [32,066千円]	再掲 1-4
小学校(中学校)学習教材整備事業 (学務課)	各小中学校に教材用消耗品及び備品の購入を行い、円滑な授業運営を支援します。 [33,340千円]	
中学校部活動補助事業 (学務課)	部活動に関わる経費の補助を行い、活動の活性化、保護者負担の軽減を図ります。 [4,708千円]	
児童(生徒)派遣等助成事業 (学務課)	児童が各種競技会、音楽コンクールに参加した際の交通費の一部及び生徒が部活動で関東大会以上の大会に参加した際の交通費、宿泊費の助成を行います。 吉岡地区からバス通学をしている児童、通学距離が6km以上で交通機関を利用する生徒に対し、通学費の全額助成を行います。 [4,177千円]	



## 1 事務事業の実績と達成度

事務事業名	実績	達成度
指導事務事業 (指導課)	学習習慣を形成する啓発活動を行った。 ・ホームページに啓発資料「家庭ではぐくむ『生きる力』」を継続して掲載 ・学校便り等をとおして啓発記事を掲載	△
特別支援教育推進事業 (指導課)	各学校の実態に応じて、特別支援教育支援員を配置した。 ・市内 11 小中学校に 21 人 ・特別支援教育支援員研修会の実施 1 回 各学校の要請に基づいて、市巡回相談員を派遣した。 ・年 48 日派遣 発達検査回数 44 回 巡回相談回数 27 回	○
小学校（中学校）学習教材整備事業 (学務課)	学習教材の供給を小中学校 17 校に実施した。 教材用備品として、指導用黒板や地図掛図等の教科用の備品をはじめ、フルートやホルン等の楽器、マットやライン引き等の体育用具、組合せ絵カードやパズルセット等の特別支援学級用の備品を整備した。	○
中学校部活動補助事業 (学務課)	中学校 5 校に部活動に関わる経費を補助した。 ・ボールやユニフォーム等の消耗品購入 ・卓球台やテニスネット等の備品購入 ・大会参加費など	◎
児童（生徒）派遣等助成事業 (学務課)	児童が各種競技会等に参加した際の、交通費の一部を補助した。また、吉岡小学校でバス通学が必要な児童に対し通学費を助成した。 ・競技会等補助 9 件 延 339 人 ・通学費助成 9 人 生徒が部活動で関東大会以上への出場に際して、交通費、宿泊費を補助した。また、バス通学が必要でかつ利用した場合に、定期券代を助成した。 ・部活動補助 6 件 延 22 人 ・バス通学助成 32 人	◎

## 2 評価と課題

指導事務事業については、家庭学習等について、ホームページの掲載及び各学校での便り等での啓発活動にとどまっており、今後は県、他市町村の取り組みを調査研究し、ホームページ等の更新、具体的な方策の提示を行っていく必要がある。

特別支援教育推進事業については、特別な支援を必要とする児童生徒に対して、ニーズに応じた支援に努めたが、発達検査の依頼等、ニーズの増加に対する相談体制の整備が課題となる。

小学校（中学校）学習教材整備事業については、教材用備品、教材用消耗品などの購入により円滑な授業運営の支援ができた。学校の要望に対して、計画的な整備を進めていくこと

が課題である。

中学校部活動補助事業については、補助により部活動の活性化が図れた。

児童（生徒）派遣等助成事業については、平成25年度から中学生の通学費助成として、バス定期券の購入額と同額の金額が助成されることになり、保護者の負担がなくなった。（従来は4分の3の助成）

### 基本方針3の点検評価

#### 【基本方針3】

教師と子どもが深い信頼関係で結ばれた学校づくりを進めます

#### ☆平成25年度教育施策に掲げた主な施策と事業

##### 1. 信頼される教職員の育成

- ① 教職員の資質能力の向上
- ② 子どもに適合する環境づくり

事務事業名	事業内容	備考
表彰事務事業 (学務課)	教職員の資質向上に資することを目的として、優れた教職員の顕彰を実施します。 [ 一 千円]	
学校支援職員派遣事業 (学務課)	市内小中学校に、生徒指導補充教員・語学指導員等の人的支援を行い、教職員が子どもたちと向き合う時間の確保に努めます。 [17, 413千円]	
教職員研修事業 (指導課)	教科等の専門的知識や指導技術の習得、いじめや不登校などの様々な教育問題に適切に対応できる資質向上のため、研修会の開催、校内研修への指導主事派遣、又、外部講師を招聘できるよう支援します。 [5, 266千円]	再掲 1-1 1-2 1-3 1-4 2-1
教育ネットワーク基盤整備事業 (指導課)	教職員が子どもと向き合える時間の確保、また、調査や報告等のデータ作成等、学校事務の効率化を図るため、ICT機器の整備を推進します。 [12, 864千円]	再掲 2-2
教育相談体制支援事業 (指導課)	教職員の心の健康維持のため、相談体制の充実などメンタルヘルス・ケアを促進します。 [5, 794千円]	再掲 1-2

## 1 事務事業の実績と達成度

事務事業名	実績	達成度
表彰事務事業 (学務課)	教育委員会表彰規程の取り扱いを見直し、教職員への表彰も可能とした。	△
学校支援職員派遣事業 (学務課)	生徒指導補充教員を派遣した。 ・小学校 6人 ・中学校 5人 語学指導員を派遣した。 ・2人	○
教職員研修事業 (指導課)	市内教職員対象の研修会を実施した。また、全小中学校の校内研修会に指導主事を派遣した。 さらに、学校の要請に基づいて、生徒指導上に問題を抱える学級等に指導主事が出向き、継続的な学校支援を行った。 ・市主催研修会 12講座 17回 参加人数 延 416人 ・指導主事が、講師として指導した回数 94回 (小学校67回、中学校27回)	◎
教育ネットワーク基盤整備事業 (指導課)	I C T機器の整備を行った。 ・センターサーバーのハウジングサービスから、ホスティングサービスへの移行を順次行った。 ・各種ソフト（ウイルス対策ソフト、学習支援ソフト等）の導入を検討し、必要に応じて導入した。 ・各小中学校のパソコンの不具合等に業者と連携を図るなど即対応した。	○
教育相談体制支援事業 (指導課)	教職員自身のメンタルヘルスに係る相談はなかった。	△

## 2 評価と課題

表彰事務事業については、表彰規程の取り扱いを見直し、教職員への表彰も含まれることとしたが、表彰基準を整備することが課題となる。今後も幅広い教職員の意欲向上、教育の資質向上につながる事業として継続していく必要がある。

学校支援職員派遣事業については、人的支援により、教職員が子どもと向き合う時間が増え、きめ細かく丁寧に見守ることができた。派遣要請に応えられなかった学校もあるので、より多くの学校に対して派遣できるよう支援体制を整えることが課題である。

教職員研修事業については、市内教職員対象の研修会は、好評で資質向上のための支援ができた。今後も講師の人選等、教職員のニーズや社会的要請から充実したものになるよう企画運営していく。

教育ネットワーク基盤整備事業については、ICT機器の整備としてサーバーのホスティングサービスを導入することができた。次年度は機器の整備を行っていく。今後も学校事務の効率化を図るためのシステムの構築が求められると考え、その計画が課題である。

教育相談体制支援事業については、教職員自身のメンタルヘルスに関する相談にも応じることができることを周知していく必要がある。

## ☆平成25年度教育施策に掲げた主な施策と事業

### 2. 地域とともにある学校づくりの推進

- ① 開かれた学校づくりの推進
- ② 地域が誇れる学校づくりの推進
- ③ 適正規模・適正配置

事務事業名	事業内容	備考
学校支援地域本部事業  (指導課)	地域コーディネーターの確保、養成及び資質向上を図り、学習支援、環境整備等を通じ、地域とともにある学校づくりを一層推進します。 また、学校が授業公開やホームページ、各種たより等を通じて、教育活動を地域へ積極的に公開することで、開かれた学校づくりを進めます。  [2, 403千円]	
学校評議員事務事業  (学務課)	各小中学校長より推薦された保護者や地域住民等を学校評議員として委嘱し、意見交換を行い、学校運営に生かします。  [1, 530千円]	
学区設定事業  (学務課)	適正な学校規模を確保し、子どもたちにとってより良い教育環境を提供し、一層の教育効果の向上を図るため、適正規模・適正配置に向けた情報収集を行います。  [222千円]	

## 1 事務事業の実績と達成度

事務事業名	実績	達成度
学校支援地域本部事業 (指導課)	<p>地域コーディネーター会議を年間2回実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校支援コーディネーターの委嘱（1名）</li> <li>・地域コーディネーターの委嘱（各学校1名 計17名）</li> <li>・地域住民の学校支援活動回数 593回</li> </ul> <p>また、全小中学校においてホームページの更新作業を行った。</p>	○
学校評議員事務事業 (学務課)	<p>市内全小中学校から学校評議員81名の推薦を受け、委嘱した。</p>	◎
学区設定事業 (学務課)	<p>南小学校及び八木原小学校の通学区域について諮問した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回学区審議会開催</li> </ul>	○

## 2 評価と課題

学校支援地域本部事業については、地域コーディネーター会議を開催し、事業の趣旨の理解及び情報交換等ができたこと、学校支援コーディネーターを派遣したことなどにより、地域とともにある学校づくりを推進することができた。

各学校の教育目標に沿って、学校・地域の実態に応じ、地域コーディネーターを中心とした、図書ボランティア、除草ボランティア、体験活動支援ボランティアなど、多くの活動成果を得ることができた。今後も、学校のニーズにあった地域の支援活動を進展させていくことが必要である。

学校評議員事務事業については、様々な視点でよりよい学校づくりのための建設的な意見を聴取できた。評議員の固定化が見られることが課題である。

学区設定事業については、第1回学区審議会において、南小学校及び八木原小学校の通学区域について現状と問題点についてしっかりと意見交換が行われ、審議すべき検討課題に対する理解を深めることが出来た。

☆平成25年度教育施策に掲げた主な施策と事業

3. 安全・安心な学校づくりの推進

- ① 安全教育の充実
- ② 安全体制の充実
- ③ 施設設備の充実

事務事業名	事業内容	備考
栗山小学校建設事業  (教育総務課)	栗山小学校の耐震化を図るため、平成24年度から平成26年度までの3カ年で、校舎の改築工事等を行います。 ・改築工事（7割） ・工事監理等委託 ・仮設校舎賃貸借	[704, 052千円]
小学校施設設備維持管理事業  (教育総務課)	教育施設の安全と良好な環境を確保するため、施設設備の点検、保守管理及び補修工事等を行います。 ・消防設備保守点検委託 他 ・八木原小学校揚水ポンプ交換工事 他	[83, 066千円]
中学校施設設備維持管理事業  (教育総務課)	教育施設の安全と良好な環境を確保するため、施設設備の点検、保守管理及び補修工事等を行います。 ・消防設備保守点検委託 他 ・旭中学校他カーペット設置等工事 他	[44, 438千円]
学校安全事務事業  (指導課)	大規模災害を想定した防災教育、「地域安全マップ」を活用した交通安全や不審者への対応、実践的な避難訓練等による安全教育の推進を図ります。 また、学校内外の危険をあらかじめ予測し、いつでも対応できるよう「危機管理マニュアル」を適宜見直し、安全体制の充実を図ります。	[ - 千円]
学校支援事業  (学務課)	小学校新1年生への防犯ブザー、ランドセルカバーの配付を行い、児童の安全確保を図ります。 また、児童生徒の緊急搬送用自動車の借り上げを行い、安全体制の充実に努めます。	[2, 101千円]
学校衛生管理事業  (学務課)	衛生管理用消耗品の購入や飲料水検査、空気検査、揮発性有機化合物検査等を行い、衛生的な学校環境の維持に努めます。	[3, 672千円]

【参 考】（教育総務課）

平成24年度の予算を繰り越して実施する学校施設関連事業は次のとおりです。

- ・給食施設整備事業 事業費（工事費等）： 50,543千円  
（みそら小学校）

平成24年度から平成26年度の継続費で実施する学校施設関連事業は次のとおりです。

- ・栗山小学校建設事業 事業費（工事費等）： 1,015,623千円  
（年割額） 平成24年度： 0千円  
平成25年度： 667,225千円  
平成26年度： 348,398千円

1 事務事業の実績と達成度

事務事業名	実績	達成度
栗山小学校建設事業 (教育総務課)	栗山小学校校舎の改築工事等を実施した。 ・改築工事 ・工事監理等委託 ・仮設校舎賃借	△
給食施設整備事業（繰越事業） (教育総務課)	平成24年度から繰り越したみそら小学校の給食施設の増築工事等を実施した。 ・増築工事 ・工事監理等委託 ・厨房備品購入	◎
小学校施設設備維持管理事業 (教育総務課)	施設設備の点検、保守管理及び補修工事等を実施した。 ・各小学校消防設備保守点検委託 他34件 ・八木原小学校揚水ポンプ交換工事 他31件	○
中学校施設設備維持管理事業 (教育総務課)	施設設備の点検、保守管理及び補修工事等を実施した。 ・各中学校消防設備保守点検委託 他20件 ・旭中学校他カーペット設置等工事 他24件	○
学校安全事務事業 (指導課)	大規模災害を想定した実践的な避難訓練等の安全教育を推進した。 保護者・地域の方の見守りや通学路の見直し・点検により、登下校の安全確保を図った。	○
学校支援事業 (学務課)	小学校1年生全員に対し、入学式の時に、児童の安全を守るための物品を配布した。 ・防犯ブザー ・ランドセルカバー 緊急搬送用自動車を借り上げた。 ・緊急搬送回数 38回	◎
学校衛生管理事業 (学務課)	衛生的な学校環境の維持に努めた。 ・養護教諭連絡会議 毎学期末 ・学校保健委員会 各学校 ・環境検査	◎

## 2 評価と課題

栗山小学校建設事業については、躯体工事における職人不足や地下埋設物の撤去などに不測の日数を要したことから工事に遅れが生じ、工期内でスケジュールを変更した。また、本事業は、継続事業であることから、年度内に支出を終了することができない予算については、翌年度へ逡次繰越を行った。今後、変更したスケジュールに合わせ、工期内に完成させることが重要となる。

給食施設整備事業については、みそら小学校の給食施設の増築工事を行い、平成25年9月より東部学校給食共同調理場として稼働することができた。

小学校施設設備維持管理事業については、補修、改修、法定点検等を行い、施設の適切な維持保全が図れた。今後も、引き続き、施設の安全と良好な教育環境を確保していく必要がある。

中学校施設設備維持管理事業については、補修、改修、法定点検等を行い、施設の適切な維持保全が図れた。今後も、引き続き、施設の安全と良好な教育環境を確保していく必要がある。

学校安全事務事業については、各学校において地域の実態等を踏まえた避難訓練に取り組み、実践力の向上が図れた。定期的な訓練だけでなく、状況に応じた訓練も行っており、主体的に判断し行動できる児童生徒が増えたとの報告も受けた。各学校では、実態に応じて計画的に様々な取り組みを行っており、今後も、さらに充実した取組となるよう、各学校へ最新の情報提供に努めていく。

学校支援事業については、使い方が比較的容易で、機能的な防犯ブザーとランドセルカバーを配布し、児童の安全を守る対応を行うことができた。また、タクシーを使用した緊急搬送により、安全体制を確保した。

学校衛生管理事業については、飲料水検査等により衛生的な学校環境の維持ができた。さらに、学校保健関係団体との連携協力のもと心身の健康の保持増進を図ることができた。引き続き衛生的な学校環境の維持と学校保健関係団体との連携の強化に取り組んでいく。



【基本方針4】

自己実現を目指す市民の学習・スポーツ活動を支援します

☆平成25年度教育施策に掲げた主な施策と事業

1. 生涯学習環境の整備

- ① 生涯学習環境の整備
- ② 公民館活動の充実
- ③ 図書館の利用の推進

事務事業名	事業内容	備考
社会教育支援事業 (社会教育課)	和良比小学校及び四街道中学校の特別教室を開放し、社会教育活動や文化活動の場を提供します。 [1,079千円]	
公民館管理運営事業 (四街道公民館)	老朽化した公民館の整備を計画的に進め、生涯学習や地域活動の拠点づくりを進めます。 ・四街道公民館の耐震補強工事及びエレベーター設置工事 ・3公民館の洋便器改修工事 ・千代田公民館空調設備改修実施設計委託 また、平成26年度から四街道公民館を含めた市内3公民館すべてで指定管理者制度を導入する予定であり、市民サービスの向上と運営に係る経費の大幅な削減を図ります。 ・市内3公民館の指定管理者の選定 [144,317千円]	
公民館主催事業 (四街道公民館)	新たな公民館利用者を増やすため、魅力ある主催講座を開設します。また、放課後や、休日に子どもたちが集う場所になるよう居場所づくりに取り組みます。 ・新規主催講座の実施 ・子どもたちが集う場所となる居場所づくりを検討 [5,512千円]	

図書館管理運営事業 (図書館)	図書館を安全かつ快適に利用できるように設備の保守点検や施設の修繕等を行います。 [6, 620千円]	
資料管理整備事業 (図書館)	電算システムによる適切な蔵書管理や、インターネット予約、移動図書館車の運行等により利便性の高い図書館サービスを提供します。また、図書館資料の充実を図ります。学習室の利用については、通年型として提供します。 [93, 421千円]	
読書学習推進事業 (図書館)	主催講座や読書感想文・感想画コンクールを通じて、読書の普及活動に努めます。また、乳幼児への働きかけとして、情報提供や絵本を配布するブックスタートを実施します。 [1, 794千円]	
視聴覚機材等管理事業 (図書館)	各種団体の活動に対し、視聴覚教材、機材を貸出します。 [179千円]	

【参 考】(四街道公民館)

平成24年度の予算を繰り越して実施する公民館施設関連事業は次のとおりです。

・管理運営事業	事業費(工事費等) :	11, 414千円
(内訳)	四街道公民館耐震補強工事实施設計委託 :	4, 400千円
	四街道公民館アスベスト除去工事 :	7, 014千円

## 1 事務事業の実績と達成度

事務事業名	実績	達成度
社会教育支援事業  (社会教育課)	和良比小学校及び四街道中学校の特別教室各校3教室を開放し、市民団体の活動を支援した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・和良比小 開放日数 83日、利用者延 2,743人</li> <li>・四街道中 開放日数 65日、利用者延 828人</li> </ul> 社会教育関係団体へ補助金を交付し活動を支援した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・4団体</li> </ul>	○
公民館管理運営事業  (四街道公民館)	社会教育施設の適切な管理運営を行い、市民サービスの向上を図った。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・四街道公民館耐震補強等工事（トイレ改修、エレベーター及び多目的トイレ設置含む）</li> <li>・千代田公民館空調設備改修工事实施設計委託</li> <li>・千代田・旭公民館のホール吊り天井改修工事实施設計委託</li> </ul> 四街道公民館を含めた市内3公民館の全てについて、平成26年度から指定管理者制度導入のための手続きを行った。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・3公民館の協定書の締結（平成26年度～平成30年度）</li> </ul>	○
公民館主催事業  (四街道公民館)	市民の方の要望に応えるため新規講座を実施するなど、各公民館で特徴ある講座をそれぞれ開催した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年対象 1講座（3館共催）</li> <li>・親子対象 3講座</li> <li>・成人対象 9講座</li> <li>・高齢者対象 4講座</li> </ul>	○
図書館管理運営事業  (図書館)	施設の保守管理、維持補修に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設総合管理委託 他2件</li> <li>・図書館1階入り口誘導灯修繕 他7件</li> <li>・自動ドア補助センサー設置工事 他1件</li> </ul>	○
資料管理整備事業  (図書館)	蔵書の充実を図るとともに利便性の高い図書館サービスの提供に取り組んだ。新たに資料リサイクルを開始し、除籍資料の提供を通して、資料の有効活用と読書活動の推進に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・開館日数 328日</li> <li>・貸出冊数 372,282冊、</li> <li>・新規受入資料 13,247冊</li> <li>・予約サービス 24,789件（うちインターネット予約8,527件）</li> <li>・資料リサイクル 5,482冊</li> <li>・学習室利用 2,273人</li> </ul>	◎

<p>読書学習推進事業</p> <p>(図書館)</p>	<p>主催事業や読書感想文・感想画コンクールを実施し、読書の普及に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブックスタート 12回 682人</li> <li>・おはなし会 <ul style="list-style-type: none"> <li>4歳～小学1年 23回 175人</li> <li>小学1年～大人 23回 111人</li> <li>ストーリーテリングの会 6回 92人</li> </ul> </li> <li>・絵本の会 12回 113人</li> <li>・科学遊びと工作の会 1回 21人</li> <li>・子どもの本の学習講座 <ul style="list-style-type: none"> <li>読み聞かせ（基礎）5回 106人</li> <li>ストーリーテリング学習会 10回 105人</li> </ul> </li> <li>・小、中学校読書感想文・感想画コンクール <ul style="list-style-type: none"> <li>感想文 3,546人、感想画 136人</li> </ul> </li> </ul>	<p>◎</p>
<p>視聴覚機材等管理事業</p> <p>(図書館)</p>	<p>視聴覚機材の整備点検、団体へ機材、教材の貸出を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視聴覚機材の貸出 179件</li> <li>・視聴覚教材の貸出 18件</li> </ul>	<p>○</p>

## 2 評価と課題

社会教育支援事業については、適切な安全管理を行い、社会教育活動や文化活動の場を提供することができた。また、補助金により社会教育団体の活動を支援することができた。

公民館管理運営事業については、工事関係では、四街道公民館耐震補強等工事を実施したが、エレベーター設置を年度内に終えることができなかった。

指定管理者導入に関する手続きは、滞りなく終えることができた。

3公民館の指定管理者導入により、市民サービスの一層の向上を図れるように努める。

公民館主催事業については、新規講座として千代田公民館で「庭木の手入れ教室」を開催したが、多数の応募があった。また、3館で実施している65歳以上の方を対象とした長寿大学等の講座は、定員100人を超える応募があり、好評であった。今後も、各公民館において魅力的で特徴ある講座を企画する。

子どもたちが集う居場所づくりについては、引き続き検討していく。

図書館管理運営事業については、図書館内の清掃及び施設総合管理業務を委託しながら、市民が安心して快適に図書館を利用できるよう、経年劣化した施設の維持補修に取り組むことができた。引き続き計画的な施設設備の改修に努めていくことが必要である。

資料管理整備事業については、窓口等の一部業務委託の実施により、開館日数、開館時間の拡大が図られた。利用者数が増加していることは、評価できる内容であったといえる。今

後も委託事業者との連携を図り市民サービスの向上に努めていくことが重要となる。

新たに取り組んだ資料リサイクルでは、展示資料の98.8%が市民に利用され、好評を得ている。今後は福祉・教育・医療施設等の団体への広報、提供に努めていきたい。

読書学習推進事業については、ブックスタートやおはなし会を通し、家庭における読書普及を図ることができた。

視聴覚機材等管理事業については、視聴覚機材の定期的な保守点検を行うことで良好な状態を維持することができている。視聴覚教材の貸し出し件数が少ないので、需要に応じた対応を進めていくことが今後の課題となる。

## ☆平成25年度教育施策に掲げた主な施策と事業

### 2. 生涯スポーツの推進

- ① スポーツ環境の整備
- ② 活力あるスポーツ活動の支援

事務事業名	事業内容	備考
体育施設管理運営事業 (スポーツ振興課)	総合公園の体育施設及び温水プールについて、指定管理者に委託し管理運営を行います。 また、総合公園体育館・温水プールの維持補修工事等を行いません。 ・総合公園体育館消防設備修繕 他 ・温水プール外部排水改修工事 他 [167, 281千円]	
小中学校体育施設開放事業 (スポーツ振興課)	小学校12校の校庭と体育館、中学校5校の体育館を開放することにより、スポーツ・レクリエーションを身近に親しめる活動場所を確保します。 [3, 426千円]	
多目的スポーツ広場整備事業 (スポーツ振興課)	多様なスポーツニーズに対応可能な、多目的スポーツ広場の管理運営を行います。 ・鹿放ヶ丘多目的スポーツ広場 [95千円]	
スポーツ普及促進事業 (スポーツ振興課)	スポーツに親しむ機会を拡充し、振興を図るため、各種スポーツ教室等を開催するとともに、指導者育成のための、スポーツリーダーバンクを設立します。 また、誰もが簡単に体験できる、いろいろなスポーツを用意した、体育の日の行事を開催します。 [4, 534千円]	

総合型地域スポーツクラブ育成支援事業 (スポーツ振興課)	子どもから高齢者まで、いろいろなスポーツに親しめる、総合型地域スポーツクラブの安定的な運営を図るため、引き続き支援を行ないます。 ・総合公園体育館・多目的運動場休館日開放委託 [2, 840千円]	
ガス灯ロードレース大会事業 (スポーツ振興課)	市内外に誇れるイベントとして、障害のある人もない人も、一緒に楽しめる、ガス灯ロードレース大会を開催します。 [4, 755千円]	
印旛郡市民体育大会事業 (スポーツ振興課)	毎年7月に開催される、印旛郡市民体育大会の本市会場設営業務及び各種競技種目への市の代表選手を派遣します。 [1, 451千円]	
体育協会事務事業 (スポーツ振興課)	市体育協会の加盟競技団体において開催される、各種スポーツ大会等の調整支援を行ないます。 [2, 908千円]	

#### 1 事務事業の実績と達成度

事務事業名	実績	達成度
体育施設管理運営事業 (スポーツ振興課)	総合公園の体育施設及び温水プールについて、指定管理者に委託し管理運営を行った。また、総合公園体育館・温水プールの維持補修工事等を行った。  施設の維持管理 総合公園体育館 ・冷温水発生機ガス遮断弁交換工事 ・体育館給水ポンプ改修工事 ・多目的運動場門扉改修工事 温水プール ・外部排水改修工事	○
小中学校体育施設開放事業 (スポーツ振興課)	小学校12校の校庭と体育館、中学校5校の体育館を開放した。  体育館（バレーボール、バスケットボール等） ・利用団体数 192団体（前年度183団体） ・利用登録人数 3,001人（前年度2,782人） 校庭（ソフトボール、サッカー等） ・利用団体数 34団体（前年度34団体） ・利用登録人数 1,043人（前年度1,067人）	◎
多目的スポーツ広場整備事業 (スポーツ振興課)	平成24年度に整備した鹿放ヶ丘多目的スポーツ広場の管理運営を行った。  ・利用団体数 3団体 ・利用登録人数 150人	○

<p>スポーツ普及促進事業</p> <p>(スポーツ振興課)</p>	<p>各種スポーツ教室等を開催した。また、誰もが簡単に体験できる、いろいろなスポーツを用意した体育の日の行事を開催した。</p> <p>市が開催したスポーツ教室</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加人数 1,594人(前年度1,970人)</li> <li>・教室数 21教室(健康体操教室、元気UPスポーツ道場、ワンパクUP教室等)(前年度26教室)</li> </ul> <p>体育の日の行事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加人数 854人(前年度805人)</li> </ul> <p>スポーツ推進委員連絡協議会主催事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バスハイキング 1回、70人(前年度1回、68人)</li> <li>・体力測定会 4回、87人(前年度4回、53人)</li> <li>・自治会等へのニュースポーツ講師派遣7回(前年度5回)</li> </ul> <p>スポーツリーダーバンクを創設した。</p>	<p>○</p>
<p>総合型地域スポーツクラブ育成支援事業</p> <p>(スポーツ振興課)</p>	<p>総合型地域スポーツクラブの支援を行った。</p> <p>総合型スポーツクラブ四街道SSC</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラブ会員人数 435人(前年度435人)</li> <li>・定期プログラム ダーツ等24種目(前年度21種目)</li> <li>・不定期プログラム フットサル等2種目(前年度3種目)</li> <li>・運営委員会の開催数 12回(前年度12回)</li> <li>・総合公園体育館の月曜休館日の無料開放 36回(前年度33回)</li> </ul>	<p>○</p>
<p>ガス灯ロードレース大会事業</p> <p>(スポーツ振興課)</p>	<p>ガス灯ロードレース大会を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加申込み者数 4,029人(前年度4,086人)</li> <li>・種目 1.2km、2km、5km、10km(小学生、中学生、高校一般、障害者、親子)</li> <li>・ボランティアスタッフ数 791人(前年度700人)</li> </ul>	<p>◎</p>
<p>印旛郡市民体育大会事業</p> <p>(スポーツ振興課)</p>	<p>毎年7月に開催される、印旛郡市民体育大会の本市会場設営業務及び各種競技種目への市の代表選手を派遣した。</p> <p>印旛郡市民体育大会の運営及び各種競技への代表選手派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成績 総合5位(前年度総合4位)</li> <li>・参加競技数 16競技23種目(前年度15競技23種目)</li> <li>・参加人数 374人(前年度365人)</li> <li>・優勝種目 ソフトボール男女(前年度バレーボール女子、卓球女子、剣道、ソフトボール男女)</li> </ul>	<p>○</p>
<p>体育協会事務事業</p> <p>(スポーツ振興課)</p>	<p>市体育協会の加盟競技団体において開催される、各種スポーツ大会等の調整支援を行った。</p> <p>22競技種目の大会並びに各種教室が開催された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育協会主催の大会数 19回(前年度20回)</li> <li>・体育協会理事会数 7回(前年度7回)</li> </ul>	<p>○</p>

## 2 評価と課題

体育施設管理運営事業については、修繕及び改修工事により体育施設の安全性の確保が図られた。なお、既存のスポーツ施設については、経年劣化による補修・修繕の必要性が高く、施設の適切な維持管理のため、計画的かつ効果的な施設整備が必要である。

小中学校体育施設開放事業については、現在の活動状況が概ね円滑に行われており、市民の健康増進に役立っている。

多目的スポーツ広場整備事業については、平成24年度に鹿放ヶ丘多目的スポーツ広場の整備工事を完了した。今後は利用状況を見ながら運営方法等の検討をしていく。

スポーツ普及促進事業については、子供から高齢者までスポーツを通しての健康づくりは必要であり、市主催の各種スポーツ教室を通し、その機会を提供することができた。市民のニーズに応じたスポーツ指導者を紹介できるようスポーツリーダーバンク制度を創設したが今後は、制度の利用促進を図る必要がある。

総合型地域スポーツクラブ育成支援事業については、総合型スポーツクラブ四街道SSCがクラブ設立から4年が経過しクラブ運営は概ね順調である。総合公園体育館の月曜休館日を無料開放し、支援をしたがより自主的な運営ができるよう支援していくことが課題である。

ガス灯ロードレース大会事業については、申込者数が4,000名を超え、高い人気を維持している。今後も、安全面に配慮しながら円滑な運営に取り組んでいく必要がある。

印旛郡市民体育大会事業については、市の代表選手として各競技に参加することにより、競技力の向上に繋がり当市のスポーツ振興に大きく寄与している。今後も市代表選手を支援し、競技力の向上に努めていきたい。

体育協会事務事業については、各専門部で市民大会、スポーツ教室を開催し、広く市民に対してスポーツの普及促進に尽力している公共性の高い事業であるので、今後も継続して主催団体への支援に努めていきたい。



## ☆平成25年度教育施策に掲げた主な施策と事業

### 3. 高等教育機関等との連携と地域人材の育成・活用の推進

- ① 高等教育機関等と連携した学習機会の提供
- ② 地域における人材の育成・活用

事務事業名	事業内容	備考
市民大学講座事業 (社会教育課)	大学等の高等教育機関と連携し、市民に専門的知識等を提供し、まちづくり（市民協働）推進に役立てるため、市民大学講座（一般課程15講座、専門課程8講座）を開講します。 [881千円]	
生涯学習推進事業 (社会教育課)	市民の生涯学習意識の高揚と生涯学習活動支援のため、「学びたい」と「経験を生かしたい、教えたい」を繋ぐ生涯学習生きがいがづくりアシスト事業を行います。 [548千円]	
公民館主催事業 (四街道公民館)	大学等の高等教育機関と連携し、多様な学習情報を提供するとともに、公民館等を活用し、高度な知識・技術を習得する学習機会を提供します。 ・大学でパソコン講習会を実施 [5,512千円]	再掲 4-1

#### 1 事務事業の実績と達成度

事務事業名	実績	達成度
市民大学講座事業 (社会教育課)	一般課程の講座を増設し、まちづくりの参画につながるカリキュラムを設定した。 ・一般課程 全15講座 受講者120人 ・市民大学運営委員の企画・運営による野外学習を支援 歴史散策 33人 東京都立産業技術研究センター視察 35人 ・ボランティア体験プログラム 受講生20人 プログラム数 69回 ・専門課程 全8講座 受講者41人	◎



## 基本方針5の点検評価

### 【基本方針5】

豊かな自然や先人の創り上げた伝統文化を受け継ぎ、新しい文化を創造する市民活動を支援します

### ☆平成25年度教育施策に掲げた主な施策と事業

#### 1. 豊かな自然を大切に思う心の醸成

- ① “ふるさと四街道”の学習（自然環境）
- ② 食をとおしたふるさと四街道への愛着の醸成

事務事業名	事業内容	備考
地域学習支援事業  (指導課)	地域の自然を活用した教材開発や外部人材活用の情報提供と実践事例を教育広報紙に掲載するなど周知を行います。 社会科の学習で、本市の自然や環境の概観や特徴を掴む学習に活かすため、郷土学習教材として、社会科副読本「わたしたちの四街道」を刊行して小学3年生に配付します。  [4, 692千円]	
教職員研修事業  (指導課)	栄養士研修会や食育研修会等で地場産物を活用した献立や、地元の食文化に関する学習等について研修し、実践に活かせるようにします。  [5, 266千円]	再掲 1-1 1-2 1-3 1-4 2-1 3-1
学校給食管理運営事業  (指導課)	児童生徒のアイデアや地場産物を活用した給食を提供することで、食に対する関心とともに、ふるさとへの愛着の醸成を図ります。  [211, 829千円]	再掲 1-3
共同調理場運営事業  (学校給食共同調理場)	児童生徒のアイデアや地場産物を活用した給食を提供することで、食に対する関心とともに、ふるさとへの愛着の醸成を図ります。  [75, 185千円]	

## 1 事務事業の実績と達成度

事務事業名	実績	達成度
地域学習支援事業  (指導課)	<p>四街道市歴史民俗資料室を活用したモデル案を市内各小学校に示した。</p> <p>郷土学習教材として伝統行事や昔の暮らしについての内容を盛り込んだ社会科副読本「わたしたちの四街道」を刊行して小学3年生全員に配付した。</p> <p>小学校3, 4年生校外学習用のバスの借り上げとコースの調整を行った。</p> <p>・バスの借り上げ台数 45台</p>	◎
教職員研修事業  (指導課)	<p>夏季休業中に食育研修会を実施した。また、市教育委員会の主任栄養士が栄養士会に参加し、各学校の栄養士の相談や要望に応じた。</p> <p>・アレルギー対応の指針の作成</p>	○
学校給食管理運営事業  (指導課)	<p>地場産物を活用して調理した給食を提供した。</p> <p>・学校給食運営委員会の開催 年2回(7月、2月)</p> <p>・自校式調理業務委託 四街道小学校、中央小学校、四和小学校、みそら小学校(4月から6月)、和良比小学校、吉岡小学校、四街道中学校、旭中学校、四街道西中学校、四街道北中学校</p>	○
共同調理場運営事業  (学校給食共同調理場)	<p>地場産物を活用して調理した給食を提供した。</p> <p>・学校給食運営委員会の開催 年2回(7月、2月)</p> <p>・北部学校給食共同調理場運営委託 南小学校、大日小学校、栗山小学校、八木原小学校、千代田中学校、旭小学校、山梨小学校 ※旭小学校、山梨小学校は、25年4月～7月まで</p> <p>・東部学校給食共同調理場運営委託 ※改修工事により9月より供用開始 旭小学校、山梨小学校、みそら小学校</p>	○

## 2 評価と課題

地域学習支援事業については、社会科副読本「わたしたちの四街道」を刊行して、学習に活用したことで、児童の四街道市への理解が深まった。

教職員研修事業については、夏季休業中に食育研修会を行い、市内教職員の学校における食育の推進について理解を深め、指導力の向上を図ることができた。現在の献立にも地場産物が使われており、今後も地場産物の活用を行っていく。

学校給食管理運営事業については、運営委員会での助言を参考に、効果的な学校給食運営を図ることができた。

地元農家とJA千葉みらい(旧JAいんば)の協力を得て、地場産物を活用した中学校区ごとの統一献立「四街道カレー」を実施し好評だった。今後も関係者・関係機関と連携し、給食内容の充実や地場産物を活用した献立を実施していきたい。

共同調理場運営事業については、児童生徒のアイデアや地場産物を活用した給食を提供することで、食に対する関心とともに、ふるさとへの愛着の醸成を図ることができた。

## ☆平成25年度教育施策に掲げた主な施策と事業

### 2. 伝統文化の継承の推進

- ① “ふるさと四街道”の学習（伝統文化）
- ② 地域遺産の保護・保存と継承

事務事業名	事業内容	備考
地域学習支援事業  (指導課)	社会科の学習で、本市に受け継がれてきた伝統行事や地域の昔の暮らしについて学ぶための郷土学習教材として、社会科副読本「わたしたちの四街道」を刊行して小学3年生に配付します。 市の歴史民俗資料室を活用した学習のための校外学習で利用するバスを借上げ、各学校へ配車します。 [4, 692千円]	再掲 5-1
文化財保護管理事業  (社会教育課)	地域の有形・無形文化財及び記念物等の文化財を調査し、保存と活用を図ります。 市域に所在する文化財の基礎的調査や伝承芸能保存団体の育成指導等を通じて、文化財の積極的な公開活用を図ります。 [2, 516千円]	
歴史民俗資料施設整備事業  (社会教育課)	地域の人々が守り伝えてきた歴史資料を収集・整理し、適正な保管と管理のもとで市民の活用と展示等の公開に供するための整備事業を推進します。 [2, 420千円]	
埋蔵文化財発掘調査事業  (社会教育課)	埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて、適切な指導、調整及び試掘調査を行います。 国・県補助事業により遺跡の確認等発掘調査を行います。 [1, 695千円]	
市史編さん事業  (社会教育課)	市史に関する資料の収集と整理に努め、市史編さん事業を推進します。 [2, 481千円]	

1 事務事業の実績と達成度

事務事業名	実績	達成度
<p>地域学習支援事業</p> <p>(指導課)</p>	<p>四街道市歴史民俗資料室を活用したモデル案を市内各小学校に示した。</p> <p>郷土学習教材として社会科副読本「わたしたちの四街道」を刊行して小学3年生に全員に配付した。</p> <p>小学校3, 4年生校外学習用のバスの借り上げとコースの調整を行った。</p> <p>・バスの借り上げ台数 45台</p>	◎
<p>文化財保護管理事業</p> <p>(社会教育課)</p>	<p>地域の文化財や歴史資料の保存と活用をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よつかいどう文化財散歩「ふるさと亀崎 北年貢道探訪」 亀崎熊野神社、清久寺、旧総武鉄道亀崎橋台跡など 文化財ボランティアガイド11人、参加者 29人</li> <li>・子どもカイク飼育教室 3回 147人</li> <li>・子ども貝輪作り教室 市指定史跡八木原貝塚出土品、ベンケイ貝の「貝輪」作り 会場 南小学校 対象 南小学校5・6年生と保護者 20人</li> <li>・子ども八木原貝塚発掘体験 15人</li> <li>・八木原貝塚遺跡見学会 32人</li> <li>・明治大学研究室見学 12人</li> <li>・総合的学習の時間の出前授業 小学校2校 316人</li> <li>・四街道の文化財『復刻絵はがき』印刷4種類各1,000枚</li> <li>・いにしえの世界－四街道市物井地区の発掘ものがたり－ 会場 市役所第二庁舎市民ギャラリー 入場者数 545人 主催 公益財団法人千葉県教育振興財団 共催 四街道市教育委員会</li> <li>・いにしえの世界－研究報告会 132人 会場 四街道市文化センター</li> </ul>	◎
<p>歴史民俗資料施設整備事業</p> <p>(社会教育課)</p>	<p>歴史民俗資料室の利用促進を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・民具の出前授業 小学校6校 参加人数376人 市内小学3年生の「昔の暮らし」授業における民具を活用した出前授業</li> <li>・民具貸出し 中央小1回 歴史研究会 1回</li> <li>・社会科見学における歴史民俗資料室見学 小学校7校 436人</li> <li>・鹿放ヶ丘ふれあいセンター開拓資料室の見学・利用 689人</li> </ul>	○

<p>埋蔵文化財発掘調査事業</p> <p>(社会教育課)</p>	<p>平成25年度国庫補助国宝重要文化財等保存整備費補助金事業及び千葉県文化財保存事業補助金事業に伴う市内における発掘調査事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相ノ谷遺跡 山梨字水門 714 他 (鉄塔建設)</li> <li>・郷遺跡 物井字郷 840・841 合併 1 他 (宅地造成)</li> <li>・飯塚台遺跡 和田字飯塚台 13 番 1 (宅地造成)</li> <li>・宿遺跡 山梨字宿 1277-7 (個人住宅)</li> <li>・馬場台NO. - 1 遺跡 亀崎字馬場台 200 番地 1 の一部 (個人住宅)</li> <li>・作NO. - 1 遺跡 上野字西ノ台 195-1 の一部 (グループホーム)</li> <li>・作NO. - 2 遺跡 上野字作 116-2 他 (個人住宅)</li> <li>・椎ノ木遺跡 小名木字椎ノ木 439 番 1 他 (集合住宅)</li> <li>・四街道市内遺跡発掘調査報告書の発行 A4 版 22 頁 300 部</li> </ul>	<p>◎</p>
<p>市史編さん事業</p> <p>(社会教育課)</p>	<p>市史に関する資料の収集と整理をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市史研究誌『四街道の歴史』の発行 第9号刊行 1,000 部</li> <li>・市史編さん補助員の活動 物井栗山家文書解読 山梨栗原家文書解読 中世文書解読 収蔵史料デジタル化</li> <li>・市史編さん協力員の活動 上野栗飯原家文書整理・目録作成・デジタル化 長沼島田家文書整理 井岡家文書一部解読・翻刻 井岡家文書デジタル化終了</li> </ul>	<p>◎</p>

## 2 評価と課題

地域学習支援事業については、「わたしたちの四街道」を配付し、学習に活用したことで、児童の四街道市への理解が深まった。

文化財保護管理事業については、資料の活用・普及を図り、地域の歴史・文化の継承と発展につなげることができた。

文化財ボランティアとの連携により実施している「よっかいどう文化財散歩」については、今後も継続して実施し、地域の歴史・文化を市民に紹介していく必要がある。

歴史民俗資料施設整備事業については、市内小学校の学習活動に歴史民俗資料室が利用され利用状況の促進が図れた。新たに実施した「カイコ飼育教室」は収集・保管資料の今までとは違った観点から活用が図れた。施設の老朽化への対応が課題である。

埋蔵文化財発掘調査事業については、一定の開発行為に対して、埋蔵文化財包蔵地の保護を図れた。開発事業が増加しているが、今後も法に基づく発掘の届出に対して適切かつ円滑に対応していくことが重要である。

市史編さん事業については、旧家の古文書整理、民俗資料の収集整理をボランティアの協力により概ね計画どおり実施できた。ただし、ボランティアの活動拠点を確保すること、資料の保管と活用をすることが課題である。

## ☆平成25年度教育施策に掲げた主な施策と事業

### 3. 新しい文化の創造

#### ① 芸術文化活動の支援

事務事業名	事業内容	備考
市民文化祭事業 (社会教育課)	市民文化祭実行委員会との共催により、市民文化祭を開催し、市民の芸術文化活動の学習成果の発表の機会や、市民が身近に芸術文化に接し触れ合う場を提供します。 [5,177千円]	
市民芸術公演事業 (社会教育課)	市民団体との共催による、郷土作家展、市民演劇公演や子どもミュージカルを開催し、市民に優れた芸術文化の鑑賞の機会を提供します。 [1,067千円]	
芸術文化活動支援事業 (社会教育課)	市民ギャラリー利用等により学習成果の発表の場を提供します。 また、市民芸術文化活動団体へ補助金を交付し、芸術文化活動を支援します。 [2,424千円]	



## 1 事務事業の実績と達成度

事務事業名	実績	達成度
市民文化祭事業  (社会教育課)	市民文化祭を関係団体と共催により実施し、活動の成果を発表する場を提供した。  ・市民文化祭 39 行事 (前年度 39 行事) 参加団体 158 団体 (前年度 165 団体) 参加者 23,200 人 (前年度 22,148 人)	◎
市民芸術公演事業  (社会教育課)	優れた公演や美術展を鑑賞する機会を提供した。  ・郷土作家展(市美術協会作品展) 入場者 1,159 人 —日本画・洋画・工芸・彫刻・書道— ・市民演劇公演「雨情・慕情 下総のお吉」 入場者 600 人 ・子どもミュージカル「ふしぎな魔法の笛」 入場者 600 人	◎
芸術文化活動支援事業  (社会教育課)	学習成果の発表の場を提供するとともに、市芸術文化振興基金を活用して助成金を交付し、芸術文化活動を支援した。  ・市民ギャラリー 入場者 17,732 人 (前年度 17,996 人) ・芸術文化振興助成金の交付 3 事業 文化講演会&大正琴コンサート 入場者 520 人 四街道混声合唱団創立 30 周年記念演奏会 入場者 670 人 四街道市民ミュージカル「里山交響曲」 入場者 1,800 人	○

## 2 評価と課題

市民文化祭事業については、毎年趣向を凝らして実施しており参加者数が増えている。市民の活動成果を発表する場を確保することにより、活動意欲を高めることができた。

市民芸術公演事業については、市民が身近に芸術文化を鑑賞する機会を提供するとともに、子どもたちの芸術文化に対する関心を高めることができた。引き続き芸術文化の振興に努めたい。

芸術文化活動支援事業については、生涯学習の発表の場を提供することができた。利用希望の増加の対応と、後継者の育成など長期的な市民の芸術文化活動振興の支援策の確立が課題となる。

## 基本方針6の点検評価

### 【基本方針6】

家庭・学校・地域のもつ教育力を高め合い、三者が連携する体制づくりを進めます

### ☆平成25年度教育施策に掲げた主な施策と事業

#### 1. 家庭の教育力の向上

##### ① 家庭教育の支援

事務事業名	事業内容	備考
子育て学習事業 (社会教育課)	就学時健康診断や入学説明会の際に、家庭教育の重要性を認識するための講座等を開催します。 地域・家庭教育学級を開催し、家庭や地域における子育て意識の啓発をするとともに、親子関係のあり方や生活リズム、食育などに重点を置き家庭教育を支援します。 [457千円]	
児童(生徒)就学助成事業 (学務課)	経済的な理由により就学困難な児童・生徒や特別支援学級に在籍する児童・生徒の保護者に対し、学用品費、給食費等の助成を行います。 [46,043千円]	

#### 1 事務事業の実績と達成度

事務事業名	実績	達成度
子育て学習事業 (社会教育課)	平成26年度就学児童及び中学入学を控えた児童の保護者を対象とした講座を開催した。  ・子育て学習講座 開設 17講座 参加者計 1,654人(前年1,579人) 小学校 12校 参加者 860人(前年801人) 中学校 5校 参加者 794人(前年778人)  PTA、市民活動団体や地域の子育ての会等と連携し講座を開催した。  ・地域・家庭教育学級 開設 13講座(9事業)参加者計1,485人 (前年13講座(8事業)参加者計1,437人)	◎
児童(生徒)就学助成事業 (学務課)	経済的な理由により就学困難な児童生徒や特別支援学級等に在籍する児童生徒の保護者に対し、学用品費、給食費等を援助した。	◎

## 2 評価と課題

子育て学習事業については、子育て学習講座を例年どおり小中学校全校で実施するとともに、地域・家庭教育学級をPTA、市民活動団体や地域の子育ての会等との協働で、昨年より1講座多く開催でき、家庭と地域の教育力を高めるきっかけをつくることができた。

今後も、関係団体と連携することにより、より多くの方に様々な媒体による子育てに関する情報提供や家庭教育を考える機会を提供し、家庭や地域の教育力を更に高めていくことが重要である。

児童（生徒）就学助成事業については、国の算定要領の改正に伴い、平成25年度より特別支援教育就学奨励費の支給対象者を拡大した。

### ☆平成25年度教育施策に掲げた主な施策と事業

#### 2. 地域の教育力の向上

- ① 心豊かで健やかに育つ環境づくりの推進
- ② 体験・交流活動等の場づくり

事務事業名	事業内容	備考
青少年健全育成事業 (社会教育課)	青少年問題協議会や青少年健全育成推進大会を開催し、青少年の健全育成、指導についての推進を図るとともに、青少年健全育成意識の醸成のためのキャンペーンを実施します。 [1, 312千円]	
放課後子ども教室推進事業 (社会教育課)	放課後や週末に子どもたちの安全・安心な居場所を設け、地域の方々の参画を得て、子どもたちが地域社会の中で心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進します。 [3, 084千円]	
青少年体験活動事業 (社会教育課)	青少年体験活動実行委員会が実施する「通学合宿」事業に対し負担金を交付し、地域主体の体験活動事業を支援します。 [160千円]	
成人式事業 (社会教育課)	成人式実行委員会との共催により「新成人のつどい」を実施します。 [2, 494千円]	
地域青少年活動活性化事業 (社会教育課)	青少年相談員を委嘱し、青少年相談員連絡協議会が主催する体験学習事業、ユニカール大会、つなひき大会等の青少年育成活動を支援します。 [1, 682千円]	
青少年育成活動支援事業 (社会教育課)	青少年育成関係団体へ補助金を交付し、市民団体主体の青少年育成活動を支援します。 [428千円]	

公民館管理運営 事業  (四街道公民館)	公民館の指定管理者が実施している子どもの自主学 習（学校のプリントや読書感想文）をサポートする事 業を促進し、子どもの居場所づくりを図ります。  [144, 317千円]	再掲 4-1
青少年育成支援 事業  (青少年育成センター)	補導委員連絡協議会を始めとした関係機関との連携 を通じ、多様化・複雑化する青少年問題に対応します。 特に、街頭補導や環境浄化、広報啓発活動を実施し、 本市の青少年の非行や問題行動の未然防止を図りま す。  また、青少年の「心の居場所づくり」を目指して、 2階フロアを開放します。  [9, 656千円]	再掲 1-2

### 1 事務事業の実績と達成度

事務事業名	実績	達成度
青少年健全育成 事業  (社会教育課)	青少年問題協議会を開催し、青少年の健全育成に努めた。 <青少年問題協議会> ・5月15日 青少年関係事業について 青少年健全育成推進大会の実施について <青少年問題協議会小委員会> ・6月14日 青少年健全育成推進大会について (功労者表彰等) ・2月20日 青少年健全育成推進大会について (講師の選定・功労者表彰規程) 青少年健全育成推進大会において、顕彰、少年の主張、記念 講演及び大会宣言の採択を行い、青少年健全育成の活動の意義 を啓発した。 ・7月13日 場所：文化センター 来場者：683人 青少年健全育成キャンペーンを実施した。(市内3か所) ・啓発物資の配布 ・声かけ運動	○

<p>放課後子ども教室推進事業</p> <p>(社会教育課)</p>	<p>放課後や週末に子どもたちに安全・安心な居場所を提供した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後子ども教室を地域団体に委託</li> </ul> <p>事業参加者計 2,729人(前年度3,192人)</p> <p>地域放課後子ども教室“まじやりんこ”(大熊記念コミュニティセンター他)</p> <p>参加児童 延 1,833人(前年度1,704人)</p> <p>「あそびの城」(中央小学校)</p> <p>参加児童 延 647人(前年度1,138人)</p> <p>「出会い体験夢ひろば」(四街道四区自治集会場他)</p> <p>参加児童 延 249人(350人)</p>	○
<p>青少年体験活動事業</p> <p>(社会教育課)</p>	<p>青少年体験活動実行委員会が実施する、通学合宿事業を支援した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・負担金の交付</li> <li>・事業支援(職員の派遣等)</li> </ul> <p>四街道小学校区「通学合宿」参加者18人</p> <p>南小学校区「通学合宿」参加者21人</p>	○
<p>成人式事業</p> <p>(社会教育課)</p>	<p>成人式実行委員会との共催により、「新成人のつどい」を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者 660人</li> </ul>	○
<p>地域青少年活動活性化事業</p> <p>(社会教育課)</p>	<p>青少年育成活動を支援した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助金の交付</li> <li>・青少年相談員の委嘱 30人</li> <li>・事業支援(広報・会場手配等)</li> </ul> <p>事業参加者計 145人</p> <p>おもしろ科学実験 参加者 24人</p> <p>青少年ユニカール大会 参加者 20人:3チーム</p> <p>青少年つなひき大会 参加者 101人:8チーム</p>	△
<p>青少年育成活動支援事業</p> <p>(社会教育課)</p>	<p>青少年育成関係団体へ補助金を交付し、市民団体主体の青少年育成活動を支援した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助金交付団体</li> </ul> <p>ボーイスカウト、ガールスカウト</p> <p>子ども会育成連合会</p> <p>印旛郡市子ども会育成連合会活動を支援した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・印旛郡市子ども会育成連合会負担金の支出</li> </ul>	○
<p>公民館管理運営事業</p> <p>(四街道公民館)</p>	<p>公民館の指定管理者が、自主事業として夏休み期間等に小学生を対象に行う千代田・旭公民館の「寺子屋」(子どもの自主学習支援やイベント体験)に協力し、子どもの居場所づくりを図った</p>	○

<p>青少年育成支援事業</p> <p>(青少年育成センター)</p>	<p>青少年育成指導教員等による電話相談及び、来所相談を実施した。</p> <p>また、「いじめ撲滅キャンペーン」の一環として、児童生徒及び保護者向けに相談窓口の紹介リーフレットを作成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談の受理件数 169件（前年度111件）</li> </ul> <p>青少年補導委員及び青少年育成センター所員による街頭補導（愛の一声活動）や環境浄化活動（有害ビラの撤去や公園・通学路上のゴミ拾い）を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「愛の一声」活動での声かけ人数 6,877人</li> <li>・環境浄化活動の実施回数 18回</li> </ul> <p>有害ビラの回収枚数 1,205枚（前年度1,124枚）</p> <p>青少年の心の居場所づくりの一つとして、施設2階のオープンスペースを青少年に無料開放した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者 延80人（前年度26人）</li> </ul>	<p>◎</p>
-------------------------------------	---	----------

## 2 評価と課題

青少年健全育成事業については、青少年健全育成推進大会を通して、青少年の健全育成について推進することができた。今後も青少年健全育成キャンペーン等を通して、多くの市民に青少年健全育成の意義を普及する必要がある。

放課後子ども教室推進事業については、放課後子ども教室事業を3団体に委託し、放課後や休日における子どもたちの安全・安心な居場所を確保し、健全育成を図ることができた。教室の中には、様々な問題を抱える児童もいるため、関係機関との連携を深め、それらの問題を解決しながら、子どもを見守り育てる場所を拡大することが課題である。

青少年体験活動事業については、四街道公民館及び千代田公民館の2か所で通学合宿が実施された。多くのボランティアの方の協力をいただき、地域主体の体験活動となった。継続してボランティアを確保することが課題である。

成人式事業については、成人の記念としての行事であり、人生の節目として、成人者やその保護者にとって重要な行事として実施し、社会人としての自覚と責任を認識してもらえた。成人の記念となるアトラクション等の企画・立案をすることが重要である。

地域青少年活動活性化事業については、青少年に様々な体験の機会を提供し、世代間交流や市内同世代の交流を図ることができた。前年度と比較して参加者が減少していることから、学校や子ども会等へのPRに努めるとともに、開催時期を検討する必要がある。

青少年育成活動支援事業については、補助金の交付により、青少年健全育成を推進する団体の育成、支援をすることができた。子ども会員の減少で、各団体の会費収入が減ってきており、青少年の健全育成事業を継続的に展開していくため、今後も支援が必要である。

公民館管理運営事業については、指定管理者が自主事業で小学生を対象に「寺子屋」を行っているが、多くの参加者があり好評であった。今後も学校をとおしてのお知らせ等、周知に協力をしていく必要がある。

青少年育成支援事業については、職員による青少年への親身な関わりにより、相談の受理件数やオープンスペース利用者の増加につながるなど、相談機関としての役割を果たすことができた。また、補導活動を展開していく上でも重要な要素となる、青少年とのコミュニケーションを通して、非行の早期発見や未然防止が図れた。

今後は、補導委員による活動を、より地域に根差したものにしていくとともに、青少年を健全に育成するための人材を確保することが課題である。

## ☆平成25年度教育施策に掲げた主な施策と事業

### 3. 家庭・学校・地域の連携の推進

- ① 地域人材の活用による学校支援や地域づくり活動の推進
- ② 地域ぐるみの安全体制の構築

事務事業名	事業内容	備考
学校支援地域本部事業  (指導課)	学校を地域コミュニティの拠点と捉え、学校支援コーディネーターの派遣や地域コーディネーター会議を開催し、地域の支援による教育活動の充実を図ります。また、学校の教育活動への参画により、地域住民の生きがいづくりや地域の教育力の向上を図ります。 [2, 403千円]	再掲 3-2
青少年育成支援事業  (青少年育成センター)	不審者出没に関する情報を迅速に共有するために、関係機関と連携して「よめーる」による不審者情報の発信や「こども110番の家」活動等を通じた地域社会で子どもの安全を見守る活動を推進します。 [9, 656千円]	再掲 1-2 6-2

## 1 事務事業の実績と達成度

事務事業名	実績	達成度
学校支援地域本部事業  (指導課)	<p>学校支援コーディネーターを各学校の学校支援推進会議へ派遣した。また、地域コーディネーター会議を年間2回実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校支援コーディネーター 1人</li> <li>・地域コーディネーター 各学校1人 計17人</li> <li>・地域住民の学校支援活動回数 593回</li> </ul>	○
青少年育成支援事業  (青少年育成センター)	<p>不審者情報を「よめーる」で配信するとともに、市ホームページに掲載し、注意喚起を促した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・配信回数：19回（前年度21回）</li> <li>・登録者数：3,137人（前年度2,715人）</li> </ul> <p>「こども110番の家」事業に対し、加入軒数の増加につながる支援と活動の周知を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加入軒数：2,553件（前年度2,452軒）</li> </ul>	◎

## 2 評価と課題

学校支援地域本部事業については、学校支援コーディネーターの支援を受け、地域コーディネーターを中心に、数多くの取組がなされ、地域の支援による教育活動の充実が図れた。学校を地域コミュニティの拠点として、学校・地域の実態に応じた取組が行われるよう、見直しを行いながら、継続的に活動することが重要である。

青少年育成支援事業については、不審者情報の迅速な提供により、犯罪被害の未然防止に効果があった。また、児童と「こども110番の家」協力家庭との交流や防犯意識の高揚を目的とした、不審者対応訓練を実施するなど、新たな取り組みを企画・運営することができた。

学校や警察と連携した、より迅速な不審者情報の提供や、「こども110番の家」協力家庭、各学校のPTA、地域と連携し、子どもの安全を見守る活動を推進させることが重要である。



## V 学識経験者による意見

平成25年度分教育委員会の事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価に当たって、客観性、公平性を確保するため、学識経験者の意見を聞きました。この意見は、今年度の事業または来年度以降の事業の実施に当たり、検討・参考とすべきものです。

なお、この他にいただいた意見で、報告書の内容、表現等に関し、追加・修正ができるものは、本報告書に反映させ、学識経験者の知見の活用を図っています。

☆田村 孝（たむら たかし） 氏

敬愛大学国際学部長

平成26年度 教育委員会事務の点検・評価報告書を読んで

はじめに

平成25年度を対象とした教育委員会事務の点検・評価報告書（平成26年8月）は、平成24年度を対象とした昨年度の点検・評価報告書（平成25年8月）に比べると、「25年度の教育施策に掲げた主な施策と事業」内容が予算とともに併記され、そのため22頁も増加した読み応えのあるものに仕上がっている。また、25年度の施策は、前年度新たに策定された『四街道市教育振興基本計画』に基づいて基本方針1～6に沿って実行されており、25年度の点検・評価報告書とは構成が異なっている。両者を比べると、従来よりも教育に関する施策が充実・発展していることがわかる。それゆえ、個別の教育施策に対する「評価と課題」もいっそう細かくかつ精緻になっていると感じられた。

以下、『基本計画』の基本方針にそった施策と点検評価について所見を述べます。

### 基本方針1

豊かな感性の育成には、自然の中での体験や芸術に親しむ活動が欠かせない。そのような活動の中で自然の厳しさや美しさに直接触れ、環境を守り、自然と共に生きる力を養うことができるし、芸術に親しみ、時には自らが主体的に芸術活動に参加することによって、創造する苦悩や喜びを体験できる。さらに読書活動によって、自分とは異なる人間の人生を知って想像力をふくらませ、自らの人生を省みることもできる。そのような目的のために、指導主事や市内教科協力員による支援や「命の教育」支援、図書館指導員の派遣、図書整備の充実などはおおいに評価できよう。

他方、こうした活動にもかかわらず、不登校生徒数が前年度より19人も増えているのはやや危惧すべきかもしれない。学校相談室への通室生徒数がやや増えていることや、保護者や教職員との面接・電話相談件数が激増しているのは、近年の複雑な社会変化によるものと思われるが、早い内にその解決を図らなければならない。すでに自己評価に記載されているように、来年度のいっそうの「相談体制の強化が課題」(p.11)であろう。

こどもたちの豊かな感性や強い心の育成のもとになるのは、健康な体である。共働き家庭

が増え、家庭での食事がともすれば既成の食品やレトルト食品の使用に傾きがちな現在、食育に関する指導課の活動(p.13)は評価されるべきであるが、食育研修会や学校給食運営委員会の実施回数はやや少ないのではないかという印象を受けた。

近年、両親の希望もあって通常学級にADHD（注意欠陥多動性障害）やLD（学習障害）と健常との境界線上の児童生徒が在籍していることも多いと聞く。そのため、特別支援教育研修会に通常学級の教員が56名も参加したことは評価できよう。来年度のいっそうの充実を願うところである。またいわゆる中1ギャップ克服のために小・中の連携を密にする工夫もあってよいのではないだろうか。

## 基本方針2

教育の主目標はなんと言っても、学校、地域、家庭の三者が連携してこどもの学びの習慣を確立させることおよび学力の向上にある。それゆえ、少人数学級推進事業と教員研修事業ができたことは大いに評価されるべきであろう。ティームティーチングに関しては小学1、2年生の2つの学年に限らず、3年生以上のすべての学年に補助教員を配することが理想である。成田市のような財政に余裕のある市においては、教員採用試験に失敗して次年度の再受験を期す既卒学生を市の臨時職員として採用し、補助教員として小学校に配属させている例もある。財政上乗り越えるべき課題が大きいのと思われるが、検討に値するのではないだろうか。

2020年度から予定されている小学校英語の教科化に備え、外国語指導助手派遣事業が十分満足できる結果であったことはおおいに評価できる。またICT機器が教育現場で整備され、活用されるようになったことは喜ばしいことであるが、他方、これら機器の利用に付随する弊害（ネット中毒、ゲーム中毒など）に対する対策の強化（p.21）ならびに電子媒体情報拡散の恐ろしさや情報そのものの管理などについても児童生徒に指導する必要があるのではないだろうか。

学校教育充実支援に関しては、ほぼ適切と思われるが、特別支援教育推進事業の支援(p.23)については今後◎印がつくことが望ましい。

## 基本方針3

日中の多くの時間を学校で過ごす児童・生徒にとって、教師とこどもとが互いに深い信頼関係で結ばれることは教育活動の基本であろう。そのために教師とこどもとが向き合える環境づくりは急務である。学校における教師の仕事が増えつつある今日、助っ人としての学校支援職員の派遣は緊急焦眉の課題であると思われる。しかるに昨年度の生徒指導補充教員が小中学校合わせて11人というのは、決して十分な数字とはいえない(p.25)であろう。教員の加配は財政上の措置をとるもので、県との折衝など幾多の困難があると予想されるが、ぜひとも再検討課題としていただきたい。幸い自己評価においてこのことは今後の課題とされているので、今年度から何らかの改善策を期待したい。

なお、教職員自身のメンタルヘルスに関わる相談がなかったことについては、相談体制がつかれなかった制度上の不備によるものか、体制は整っているにもかかわらず相談がなされなかったのか、あるいは他の原因があるのかどうか、26頁の自己分析・評価からはうかがい知ることができなかった点を指摘しておきたい。

地域に根ざした教育の実現のためには、地域コーディネーターの協力が欠かせない。地域のシルバー会などの協力も得て、来年度はさらに活発な地域との連携が図られ、達成度◎を期待したい。

#### 基本方針 4

市民の学習・スポーツ関係においては、かなりの成果が上がっていると思われる。公民館や学校施設を用いた社会教育事業も一定の参加者を集め、また図書館も活発に貸出や新規受け入れの事業を行い、また読書の普及のために、おはなし会をはじめ児童向けの読み聞かせ会やストーリーテリングなどの普及活動を行っていることも十分評価できる。

スポーツ振興施策に関しては、施設設備の補修維持はもとより、小中学校の体育館や校庭を開放し市民のスポーツ振興に努めたこと、また市の開催するスポーツ教室の推進や地域スポーツクラブの支援、およびガス灯ロードレース大会の開催など多岐にわたっており、今後もういっそうの取り組みが期待されよう。

市民大学講座はかなり活発に営まれており、一般課程の中に「まちづくり」の講座が設けられていることは大いに評価できるが、さらに一歩進めて、「地域づくり」として、地域スポーツ（こども会、少年少女野球教室、少年少女サッカー教室など）の指導者育成コースを設け、地域スポーツ活動との連携の一環として市民大学をあらたに位置づけるなどの形も考えられるのではないだろうか。

#### 基本方針 5

伝統文化の継承の中に、「ふるさと四街道」の自然環境についての学習を位置づけ、さらに24年度はあまり重点課題として取り組まれていなかった学校における食育の研修および活動を、ふるさとの地場産物を用いた給食の提供と結びつけたのは、かなりユニークだと思われる。今後のいっそうの取り組みを期待したい。

伝統文化の学習と地域遺産の保護・保存についても、こどもを対象とした教育活動（『わたしたちの四街道』、校外学習、こどもカイコ教室をはじめとする見学会や貝塚発掘体験など）および埋蔵文化財の調査、市史編纂事業などかなり活発に行われたと評価できる。

文化の創造に関してもかなりの活動が見られ、参加者も増えていて市民の参加・活動意欲が高まっていることは十分評価できるが、芸術文化活動事業のひとつとして、一流の芸術家たちによる演劇やコンサートなどの上演があってもよいのではないかと思われる。

#### 基本方針 6

少子化を防ぐためにも、家庭、地域、学校の三者による連携協力体制の構築は不可欠である。子育て学習事業が活発であることはまことに喜ばしいし、経済的な格差が広がりつつある現在、就学助成事業は今後ますます重要となる。これらの二事業がいずれも◎であることは大いに評価できる。地域と学校、家庭の相互連携においては地域コーディネーター、学校支援コーディネーターの活動が欠かせない。その割には両コーディネーターの人数が十分ではないように思われる。地域の自治会やシルバー会などの活動の一環に取り入れ、地域と学校、家庭の連携をよりいっそう密に図る必要があるように思われる。

## おわりに

平成 25 年度における四街道市教育委員会の活動は、全体的に見て、前年度に劣らず網羅的でかつ活発であったと思われます。少子高齢化による若年層の先細り現象への対処、青年層の雇用条件の厳しさ、国際情勢の緊張に伴う原油価格の高騰など、一自治体だけでは対応しきれない事象が山積する中で、地方公共団体の財政も厳しい状況にあると察せられます。しかしながら、教育・文化活動は人間らしい生活を送るための支えとなり、よりよい明日を保証する重要な活動でもあります。こうした活動を発展させることは現在ますます重要となっていると言って過言ではありません。そのための関係者のご努力には敬意を表するとともに、よりいっそうの成果が上がるよう祈念しております。

☆江崎 俊夫（えざき としお）氏

元県立千葉中学校・千葉高等学校 校長

（はじめに）

平成 25 年に「明日を切り拓く、心豊かでたくましい人づくり」をめざして、教育振興基本計画が策定された。本評価は、その基本計画に沿って、各施策と事業がどのように展開され、どのような成果が上がったのか、さらにはどのような課題が見えてきたのか、この 3 つの観点から各項目について意見を述べる。

### 【基本方針 1】

豊かな感性を育み、強い心で正義を尊ぶ、たくましい子どもを育てます

#### 1 豊かな感性を育む教育の推進

教職員研修事業については、教員が、問題解決的、体験的な授業、あるいは主体的な学びの必要性を理解し、問題意識を持っていなければ、効果は半減する。その点、校内で実施する研究会は、各学校の課題に沿って協議ができるだけでなく、組織としてのまとまりを持って授業に臨む姿勢をつくり出せる点で、大きな意味を持つ。今後も指導主事等を講師とした校内研究会等の機会をより多く持ってほしい。

読書活動活性化支援事業については、推進計画に沿って実施されているが、残念ながら状況が改善されたとは言い難い。子どもたちの本離れが叫ばれて久しいが、学校図書館指導員の役割の重要性は変わることはない。読書の楽しさを子どもたちに体験させていくため、勤務日数の一層の拡大を図っていただきたい。

また、学校図書標準冊数率 100% の達成に至っていない学校については、100% の達成をめざし、蔵書増を図っていただきたい。

#### 2 強い心と正義感の育成

「命の教育」の重要性は、すでに各学校・教員は十分認識していることである。道徳の時間等でも積極的に取り組んできているという自己評価である。しかし、世間ではいじめによる自殺など、不幸な出来事も発生し、命に関わる事件が後を絶たない。実は、学校・教員が考えているほど、子どもたちの「命を大切する心」が育てられていないのではないかと思う。

本市の子どもたちに限って…ということはない。今後も継続的な取組と内容の充実を図って  
もらいたい。

前年度と比較して面接や電話による相談件数が大きく増加している。不登校等がより深刻  
化しているにとらえられるが、家庭・学校との連携がより円滑に行われてきているとも考え  
られる。教育相談は、こつこつと粘り強く保護者に対応していかなければならず、加えてす  
ぐに成果が上がるものではない。担当者の地道な努力が問題解決に導くのである。そのご苦  
労に感謝したい。

今後も家庭・学校はもとよりスクールカウンセラー、ソーシャルワーカー等と連携して困  
難な問題に継続的に対応してもらいたい。

### 3 たくましい子どもの育成

体力向上については、各学校への指導助言を踏まえ、まずは県平均を目標にして取組を強  
化する必要がある。たとえば、県が実施している「遊・友スポーツランキングちば」に参加  
して、楽しみながら体力向上を目指すのも一つの方法であるとする。

また、部活動等への指導者の派遣については、成果を上げつつあると考えられるが、学校  
の要請に応え切れていないという。新たな人材発掘が課題である。広報を充実させるなど  
により、是非人材の確保をお願いしたい。

「弁当の日」については、教育面のみならず様々な効果があると言われている。実施校で  
の検証・評価を行うとともに、他県での実践も参考にしながら、課題などを整理・検討し、  
平成 28 年度の全校実施を是非実現してほしい。

### 4 教育機関の連携推進

文部科学省の調査（H24 結果公表）によると、全国の小中学校の通常学級に発達障害のある  
児童生徒が約 6.5%在籍している可能性があり、その数は増加傾向にあるとしている。小  
中学校ではインクルーシブ教育※1が徐々に広がりを見せている中で、特別支援学校教諭の  
免許を持っている教員が求められている。こうしたことから、特別支援教育に関する専門的  
知識等を持った教員を育てるため、研修事業をより拡充させる必要がある。長期研修制度等  
を利用し、意欲のある教員を将来の指導者として育てることも考えていただきたい。

※1インクルーシブ教育：障害のある人もない人も共に学ぶことによって、共生社会を実現していこうとする教  
育

#### 【基本方針 2】

確かな学力を身につけた子どもを育てます

#### 1 魅力ある授業の推進

「授業力」は指導技術だけではなく教材開発力や熱意などもその要素に含まれる。校内研  
修も大切だが、それだけでは井の中の蛙になりがちで、自己満足してしまうこともある。積  
極的に外部の研修会・研究会や他校の授業参観などに参加し、刺激を受け、教材研究等に取  
り組んでほしい。また、研修や授業参観について、できるだけ多くの教員が参加できるよう  
早めに日程調整を図っていただきたい。

## 2 多様な学びの推進

小中一貫教育については、少子化によるデメリットをメリットに変えるだけでなく、小から中への環境の変化について来られず、不登校などの学校不適應につながる、いわゆる「中1ギャップ」を埋めるものとして期待されている。単なる連携とは異なり、組織的計画的に9年間の系統的な指導が可能となることから、工夫次第で学習面や生活指導面で大きな効果があるとされている一方で、課題も多いという指摘もある。今後は、制度化の動きも見極めながら、研究組織の設置、先進事例の調査研究などを進めてほしい。

キャリア教育については、その重要性は言うまでもないが、課題は、児童生徒一人一人が体験から得た成果を今後どのように生かして行くかである。「振り返り学習」を充実させるなど、事後指導を丁寧に行い、学んだことを着実に身につけてほしい。

外国語（英語）教育については、中学校では英語の授業は英語で実施、IB（国際バカロレア）※2認定校200校構想などの国の動きがある中、ALT（外国語指導助手）の配置を拡充させることは急務であると考えられる。積極的な取組を望む。

国の後押しもあり、電子黒板が普及してきた。電子黒板はじめICT（情報通信技術）機器を活用した授業は必須になりつつある。導入・活用事例の研究をはじめとして、より一層の研修・研究が求められる。

現在、スマホの普及率が急速に拡大し、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を利用する児童生徒が増加していることから、以前よりも増して情報モラルをしっかりと指導する必要がある。また、全国では、ネット犯罪に巻き込まれ被害者になってしまう事件も発生している。自分で自分の身を守ることが基本である。正しく判断できる力をつけられるよう、具体的事例を示しながら指導していただきたい。

※2 IB（国際バカロレア）：インターナショナルスクールや各国の現地校の卒業生に国際的に通用する大学入学資格を付与すること（文部科学省ホームページから）

## 3 学校教育充実の支援

学習習慣の確立は、家庭の協力なくして成り立たない。子どもたちの周りには、テレビ、ゲーム、スマホ、パソコンなどがあふれており、学習に集中しにくい環境にある。家庭の理解・協力を得るために、保護者への啓発活動を根気強く継続していただきたい。

### 【基本方針3】

教師と子どもが深い信頼関係で結ばれた学校づくりを進めます

#### 1 信頼される教職員の育成

教員の資質向上は最重要課題であるが、教員自身が心身の健康を保持できなくては元も子もない。特に、近年メンタル面の問題を抱える教員が増加傾向にあると聞く。教員は真面目で頑張り屋が多いと言われていた。自分が気づかぬうちに鬱状態になる危険もある。是非メンタルヘルスの啓発活動を充実させ、気軽に相談できる体制をつくってもらいたい。

#### 2 地域とともにある学校づくりの推進

地域の理解・協力は学校運営上必要不可欠で、特に地域コーディネーターの役割はきわめて重要である。今後ともコーディネーターの派遣に力を入れていただきたい。

また、評議員については、学校の活性化に密接につながっていることから、固定化を避け新たな協力を得られるよう、人材発掘に努めてもらいたい。

### 3 安全・安心な学校づくりの推進

小学校1年生への防犯ブザー等の配付は、今後も継続していただきたい。こうした防犯グッズの配付とあわせて、登下校時や学校外での安全を確保するため、安全教育を計画的に進める必要がある。

#### 【基本方針4】

自己実現を目指す市民の学習・スポーツ活動を支援します

#### 1 生涯学習環境の整備

生涯学習事業は市民の学習ニーズに適切に対応したものでなければならない。特に公民館主催事業は、市民にとって身近な学習機会を提供するものである。アンケートを実施するなどによりニーズを把握し、講座内容の充実を図っていただきたい。

市立図書館は、市民のための学習拠点である。学習環境の充実に向けて、委託事業者との連携を深め、より円滑な運営に努めていただきたい。また、資料リサイクルという新たな試みは、不要となった資料の有効利用と市民のニーズを両立させるもので、大いに評価できる。

#### 2 生涯スポーツの推進

健康への関心が高まる中、市民のスポーツ熱は衰えることはなく、ますます盛んになってきている。それに伴い、体育施設・学校施設開放はじめ各種事業計画などへの要望も多岐にわたっているのではないかと想像する。先を見通しながら計画的に施設整備、事業運営を進めていただきたい。

#### 3 高等教育機関等との連携と地域人材の育成・活用の推進

市民大学講座は、図書館・公民館と同様に、市民の学習ニーズが顕著に表れる事業である。今後の課題は、多様化する要望にどう対応するか、学習者にその成果をどう地域へ還元してもらうかなどであると考え。こちらの考えを明確に示し、理解・協力を求めることも必要である。試行錯誤があると思われるが、明確な方針を立て地道に取り組んでいただきたい。

#### 【基本方針5】

豊かな自然や先人の創り上げた伝統文化を受け継ぎ、新しい文化を創造する市民活動を支援します

#### 1 豊かな自然を大切に思う心の醸成

文化財、歴史民俗資料、社会科副読本は、市の貴重な学習資源である。各学校ではこれらを活用した学習を取り入れた授業を是非計画していただきたい。

また、地場産物を使った献立は、食糧自給の重要性を再確認するとともに、郷土への愛着を醸成するもので有意義である。今後も地元農家やJAなどの協力を得ながら継続していただきたい。

## 2 伝統文化の継承の推進

本市には貴重な文化財が豊富にある。広く市民にその文化財の存在を知ってほしいと思う。「よっかいどう文化財散歩」は、ネーミングも親しみがあり、かつ市民が気軽に参加できる事業であるとする。今後も継続して実施してもらいたい。

## 3 新しい文化の創造

スポーツと並んで文化活動への市民の参加は、年ごとに増加の傾向にある。市民ミュージカルのように、高齢者だけでなく、様々な年齢層の市民が参加・活動できる企画を今後も計画していただきたい。

### 【基本方針6】

家庭・学校・地域のもつ教育力を高め合い、三者が連携する体制づくりを進めます

#### 1 家庭の教育力の向上

核家族化が進むとともに、近所との人間関係の希薄化などから、一人で子育てに悩む親は増えていると思う。こうした親が孤立しないよう、子育て学習講座などを拡充させることが求められる。

また、最近、経済格差の広がりによる子どもの貧困問題が深刻さを増しているとの指摘がある。そのような状況の中で、就学援助事業の役割はますます重要になってきていると考える。今後とも必要に応じて支給対象者の見直しを進めていただきたい。

#### 2 地域の教育力の向上

放課後子ども教室は、預ける親にとってなくてはならない存在となっている。特に問題を抱えている子どもに対しては、他機関と密接な連携をとりながら親身になって対応していただきたい。

通学合宿については、子どもたちの自主性を育てるとともに、家庭・地域が一体となって子どもたちを育てるという意味で、大変意義深い取組である。また、寺子屋の活動も公民館の自主事業として実施し、好評であると聞いている。家庭・地域一体という点では、通学合宿と同様に有意義であるとする。今後も継続できるよう支援をお願いしたい。

青少年育成支援事業については、相談件数やオープンスペース利用者の増加など、成果が上がっている。担当者の粘り強い取組の結果であると考えられるが、より円滑な運営ができるよう行政の支援を求めたい。

少子・高齢化社会と言われている時代であるが、どちらかと言えば、その数が増加の一途をたどっている高齢者に目が向けられ易い傾向にあり、数が減少している子どもたちに焦点を合わせた事業はそれほど多くないと思われる。青少年育成は、当たり前だが、次代を背負う人材を育てるもので、市民一人一人が関心を持ってかかわっていただきたい。

今後も青少年育成に力点を置き、通学合宿や寺子屋のような自主的な活動に対して、より一層の支援を期待したい。

#### 3 家庭・学校・地域の連携の推進

家庭・学校・地域の連携の重要性は今さら言うまでもない。学校支援地域本部事業は、地



域が一体となって子どもを育てる体制をつくり出す原動力となる。過剰な学校への期待を薄める役割も担っている。自己評価にもあったが、学校・地域の実態に応じ、見直しを行いながら、継続的に取り組んでほしい。

(まとめ)

いろいろと意見を申し上げたが、評価項目にないが極めて重要であると思われる点を以下に述べてまとめとする。

最近、OECD（経済協力開発機構）が34カ国・地域の中学校を対象に、教員の勤務環境や指導状況を調査した結果が報道された。この調査は、2012年から2013年にかけて各国で実施し、今回日本は初参加である。

それによると、1週間当たりの教員の仕事時間は、参加国平均が38.3時間。日本は53.9時間で最も長く、50時間を超えたのは日本だけであった。授業時間については日本が17.7時間で、平均の19.3時間を下回っている。

この調査結果から、日本では、書類作成などの雑務や部活動指導などの時間が多く、教材研究や研修時間が少ないということが明らかになった。小学校についても中学校と同様な状況にあると容易に想像できることだが、日本の教員はこんなにも多忙なのかと改めて認識した。

こうした実態を考えると、教育振興基本計画に則って事業計画を円滑に進めるためには、教員の多忙化を緩和する必要があると思う。教員の研修や研究を求める、必要であるという、これまで述べた意見と矛盾してしまいそうだが、多忙の中でそうした時間を確保するのは容易ではないことだけは確かである。

しかし、研修や研究は必要である。では、どうしたらよいか。

教員が生き生きとその責務を遂行するためには、学校支援地域本部はじめ、家庭や地域がこれまで以上に協力が可能となる体制を確立するとともに、できるだけ教員の雑務を軽減する方策を立てる必要がある。国や県にも責任のあることであるが、たとえば、学校では会議・打合せの効率化、時間の削減を図る。教育委員会では、調査・報告書の統一化・簡素化を図るなどである。加えて教員の増員である。

教員の多忙化に対する特効薬はないが、できるところから少しずつ取り組んでいってほしい。

終わりに、本市の子どもたちが伸び伸びと健やかに育ち、また、教職員が明るく生きがいを持って教育に力を尽くせるよう、教育委員会の努力と市民の御協力をお願いして、まとめとする。

## VI おわりに

教育振興基本計画は、「明日を切り拓く、心豊かでたくましい人づくり」を基本理念に掲げ、平成25年度からスタートしました。この計画に基づき作成した教育施策により実施した事務事業に対する点検・評価は、今回が初めてとなります。

実施した事務事業の自己評価を行った結果、事務事業の達成度は、全82事業（繰越・再掲を含む）のうち、◎（十分満足できる結果であった）30事業（37%）、○（満足できる結果であった）47事業（57%）、△（やや不満足な結果であった）5事業（6%）となりました。◎と○を合わせると94%になり、達成度から見ると、一定の成果を得ることができたと評価しています。

さらに自己評価に加えて、客観性や公平性を確保するため、2名の学識経験者から、専門的な見識によるご意見やご提言をいただきました。

自己評価及び学識経験者からのご意見やご提言から明らかになった課題は、今後、改善へ向けて取り組むとともに、新たなニーズにも対応しながら、事務事業の充実を図り、四街道市の目指す教育の実現に向けて教育行政を推進してまいります。

資料

四街道市教育振興基本計画の基本方針別目標の達成状況

基本方針 1

目標項目		現状	25 年度	目標 29年度
「人の気持ちがわかる人間になりたいと思う」という問いに対し、『そう思う』『どちらかといえばそう思う』 【全国学力・学習状況調査】	小学校 6年	92.7% (21年度)	90.1%	100%
	中学校 3年	92.9% (21年度)	93.1%	100%
「人が困っているときは、進んで助けますか」という問いに対し、『そう思う』『どちらかといえばそう思う』 【全国学力・学習状況調査】	小学校 6年	71.8% (21年度)	今回調査なし	100%
	中学校 3年	75.0% (21年度)	今回調査なし	100%
新体力テストの結果における運動能力証交付率	小学校 男女	32.0% (23年度)	34%	40% 以上
	中学校 男子	14.0% (23年度)	16%	25% 以上
	中学校 女子	35.2% (23年度)	38%	45% 以上
スポーツ、芸術分野での活躍		※1		全国大会、アジア大会、 世界大会出場者を輩出

※1 (平成25年度教育委員会表彰実績)

スポーツ 全国大会出場9人(団体)、アジア大会出場1人(団体)、世界大会出場5人(団体)

芸術 全国大会出場1人(団体)、アジア大会出場1人(団体)、世界大会出場1人(団体)

基本方針 2

目標項目		現状	25 年度	目標 29年度
基礎基本の問題の平均正答率 【全国学力・学習状況調査】	小学校 6年	全国平均とほぼ同じ (21年度)	全国平均を やや下回る	全国平均を上回る
	中学校 3年	全国平均とほぼ同じ (21年度)	全国平均と ほぼ同じ	全国平均を上回る
活用が中心となる問題の平均正答率 【全国学力・学習状況調査】	小学校 6年	全国平均とほぼ同じ (21年度)	全国平均と ほぼ同じ	全国平均を上回る
	中学校 3年	全国平均とほぼ同じ (21年度)	全国平均と ほぼ同じ	全国平均を上回る
千葉県標準学力検査の平均 得点（各学年各教科において）	小学校	県平均とほぼ同じ(21 ～23 年度)	県平均とほ ぼ同じ	県平均を上回る
	中学校	県平均とほぼ同じ(21 ～23 年度)	県平均とほ ぼ同じ	県平均を上回る
英語検定3級程度の取得率 (中学校卒業まで)	中学校 3年	21% (平成23年度)	23.1%	50%以上
学校図書館での年間貸し出 し冊数（1人当たり）	小学校	25.7冊 (22年度)	28.1冊	30冊以上
	中学校	3.4冊 (22年度)	4.8冊	10冊以上
「将来の夢や目標を持って いますか」の問いに対する肯 定的な回答 【全国学力・学習状況調査】	小学校 6年	85.8% (平成21年度)	87.6%	100%
	中学校 3年	74.3% (平成21年度)	76%	100%

基本方針 3

目標項目		現状	25 年度	目標 29年度
「学校が楽しいか」という問 いに対する肯定的な回答 【小5、中2対象アンケート 調査】	小学5年 生	90.0% (23年度)	80.8%	95%以上
	中学2年 生	81.7% (23年度)	78.1%	90%以上

不登校児童生徒の出現率（在籍児童生徒数に占める不登校児童生徒数の割合）	小学校	0.26% (23年度)	0.20%	0%
	中学校	2.60% (23年度)	3.04%	2%以下
「直近1年間でストレスが増えているか」という問いに対し「増えた」との回答 【市内教職員アンケート調査】	小学校	41.5% (23年度)		20%以下
	中学校	41.3% (23年度)		20%以下
学校施設の耐震化率		89.2% (23年度)	95.1%	100%

#### 基本方針 4

目標項目	現状	25年度	目標 29年度
生涯学習活動に取り組んでいる人	67.3% (18年度)		70%以上
公民館利用者数	167,178人 (1日当たり165人) (23年度)	149,324人 (170人)	177,300人 (175人)
図書館利用者数	93,300人 (1日当たり323人) (23年度)	100,358人	100,000人 (346人)
図書貸出冊数	353,591冊 (利用者1人当たり3.8冊) (23年度)	369,079冊	400,000冊 (4.0冊)
週1回以上運動をする成人	48.8% (23年度)		60%

#### 基本方針 5

目標項目	現状	25年度	目標 29年度
歴史民俗資料室等の来場者数	705人 (23年度)	1,846人	1,500人
芸術文化公演事業等の来場者数	2,700人 (23年度)	2,359人	4,000人
市民文化祭への参加団体数	162団体 (23年度)	158団体	180団体

基本方針 6

目標項目		現状	25 年度	目標 29年度
「近所の人に出会った時は、挨拶をしているか」の問いに対する肯定的な回答 【全国学力・学習状況調査】	小学校 6年	89.1% (21年度)	今回調査なし	100%
	中学校 3年	79.9% (21年度)	今回調査なし	100%
放課後や休日の子どもの居場所づくり		3か所 (23年度)	3か所	5か所
「子ども110番の家」登録件数		2,401軒 (23年度)	2,553件	3,000軒
市民一人一人が子どもを見守っている		44.5% (23年度)		50%



平成26年度  
教育委員会事務の  
点検・評価報告書  
(平成25年度対象)  
平成26年8月  
四街道市教育委員会